

官報

號外 昭和十五年二月二十五日

○第七十五回衆議院議事速記録第十六號

帝國議會

昭和十五年二月二十四日(土曜日)

午後一時二十二分開議

議事日程 第十五號

昭和十五年二月二十四日

午後一時開議

第一 昭和十三年法律第二十三號中改

正法律案(關東局、朝鮮總督府、臺

灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於

ケル租稅收入ノ一部ニ相當スル金額

等ヲ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルル

コトニ關スル件)(政府提出)

第一讀會

第二 委託又ハ郵便ニ依ル戶籍届出ニ

關スル法律案(政府提出、貴族院送

付)

第三 昭和九年法律第四十五號中改正

法律案(貿易調節及通商擁護ニ關ス

ル件)(政府提出、貴族院送付)

第一讀會

第四 裝飾師法案(政府提出、貴族院

送付)

第五 大正十一年法律第五十二號中改

正法律案(統計資料實地調査ニ關ス

ル件)(政府提出、貴族院送付)

第一讀會

第六 鑛業法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第七 砂鑛法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第八 輸出資金及輸出品製造資金融通

損失補償法案(政府提出)

第九 臺灣私設鐵道補助法中改正法律

案(政府提出)

第十 市町村義務教育費國庫負擔法改

正法律案(政府提出)

第十一 現役小學校教員俸給費國庫負

擔法中改正法律案(政府提出)

第十二 會計検査院法中改正法律案

(政府提出)

第十三 職業紹介法中改正法律案(政

府提出)

第一讀會

〔左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲

茲ニ掲載ス〕

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

検査計理士法案

提出者

森田重次郎君 小山倉之助君

松田竹千代君

第一讀會

國民生活改善ニ關スル建議案

提出者 伊藤東一郎君

軍用犬ノ保護並増殖獎勵ニ關スル建議案

提出者 伊藤東一郎君

寧蘭大畑間船車連絡施設ニ關スル建議案

提出者

手代木隆吉君 森田重次郎君

深澤 吉平君 工藤 鐵男君

印章ノ製作保管販賣ニ關シ取締令制定ニ

關スル建議案

提出者 原 玉重君

飼料資源ノ確保並配給機構整備ニ關スル

建議案

提出者

河野 一郎君 砂田 重政君

大石 倫治君 小笠原八十美君

小串 清一君 多田 滿長君

立川 平君 坪山 德彌君

土田 莊助君 村上 國吉君

野溝 勝君 山口忠五郎君

佐藤謙之輔君 三善 信房君

服部 岩吉君

(以上二月二十二日提出)

ダバオ麻生産組合ノ生産セルマニラ麻輸

入許可ニ關スル建議案

提出者

濱地 文平君 田代 正治君

學校ノ夏期休暇延長ニ關スル建議案

提出者 星 一君

學校教育ノ完成ニ關スル建議案

提出者 星 一君

(以上二月二十三日提出)

一 去二十二日議長ニ於テ辭任ヲ許可シタル

常任委員左ノ如シ

第三部選出豫算委員 平川松太郎君

第四部選出豫算委員 星 一君

第六部選出決算委員 馬岡 次郎君

一 去二十二日常任委員補關選舉ノ結果左ノ

如シ

第七部選出

豫算委員 河野 一郎君(肥田琢司君

補關)

第七部選出

懲罰委員 藤田 若水君(八並武治君

補關)

一 去二十二日特別委員理事補關選舉ノ結果

左ノ如シ

昭和十二年法律第九十號中改正法律案

(米穀ノ應急措置ニ關スル件)(政府提出)

委員

理事 深澤 吉平君(理事森下國雄君

去二十一日委員辭任ニ付其ノ

補關)

一 去二十二日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ

如シ

東北興業株式會社法中改正法律案(政府

提出)外一件委員

辭任小柳 牧衛君 補關釘本 衛雄君

辭任佐藤 啓君 補關木村 武雄君

船員保險特別會計法案(政府提出)外四件

委員

辭任曾木 重貴君 補關三浦 虎雄君

明治二十五年三月三十一日
第三種郵便物認可

一昨二十三日常任委員補關選舉ノ結果左ノ如シ

第三部選出

豫算委員 山道 襄一君(平川松太郎 君補關)

第四部選出

豫算委員 稻田 直道君(星一君補關)

第六部選出

決算委員 樋口善右衛門君(馬岡次郎 君補關)

一昨二十三日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ

所得稅法改正法律案(政府提出)外三十件委員
辭任津倉 龜作君 補關飯田 助夫君

○議長(小山松壽君) 是ヨリ會議ヲ開キマス、御諮リ致シマス、第五部選出決算委員工藤十三雄君、右常任委員辭任ノ申出ガアリマス、之ヲ許可スルニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可スルニ決シマタ、其ノ部ノ諸君ハ速ニ補關選舉ヲ行ヒ御届アラシコトヲ望ミマス

此ノ際一言致シマス、昨二十三日ヲ以テ會期三分ノ二ニ達シマシタカラ、先例ニ依リマシテ本會議中委員會開會ノ件ハ、院議ニ諮フコトナク議長ニ於テ許可シ得ルコト、又法律案ハ定規ノ時日ニ拘ラズ上程シ得ルコトト致シマス——日程第一、昭和十三年

法律第二十三號中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス——木村大藏政務次官

第一 昭和十三年法律第二十三號中改正法律案(關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル租稅收入ノ一部ニ相當スル金額等ヲ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルルコトニ關スル件)(政府提出)

第一讀會
昭和十三年法律第二十三號中改正法律案

昭和中左ノ通改正ス
第一條中「所得稅、」フ下ニ「營業收益稅、」ヲ、「法人資本稅、」フ下ニ「酒造稅、」ヲ、「臨時利得稅、」フ下ニ「及關東局及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル外貨債特別稅、揮發油稅又ハ資本利子稅」ヲ加ヘ「增收額及」ヲ「增收額並ニ關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル特別法人稅、配當稅、」ニ改ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔政府委員木村正義君登壇〕

○政府委員(木村正義君) 只今議題トナリマシタ昭和十三年法律第二十三號中改正法律案提出ノ理由ヲ説明致シマス

現行ノ昭和十三年法律第二十三號第一條ノ規定ニ依リマシテ、關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ヨリ、其ノ租稅收入ノ一部ニ相當スル金額ヲ、臨時

軍事費特別會計ニ繰入ルルコトニ相成ツテ居リマスルモノノ外ニ、今回新ニ關東局及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル營業收益稅、酒造稅、外貨債特別稅、揮發油稅、又ハ資本利子稅ノ昭和十五年度以降ノ増徴ニ因ル增收額ノ一部ニ相當スル金額ヲ、又朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル特別法人稅、又ハ配當稅ノ創設ニ因ル收入額ノ一部ニ相當スル金額ヲ、毎年度豫算ノ定ムル所ニ依リ、臨時軍事費特別會計ニ繰入ルルコトニ致シマシタル所、是ガ會計上ノ處理ニ關シマシテ、昭和十三年法律第二十三號中改正ヲ必要ト致シマス

ノデ、本法律案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上、速ニ御協賛ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス

○議長(小山松壽君) 本案ノ審查ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○服部崎市君 本案ハ政府提出昭和十五年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案外五件ノ委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○服部崎市君 日程第二乃至第五ハ後廻シトセラレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

議アリマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第二乃至第五ハ後廻シト致シマス——日程第六及第七ハ便宜上一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、日程第六、鑛業法中改正法律案、日程第七、砂鑛法中改正法律案右兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス——加藤商工政務次官

第六 鑛業法中改正法律案(政府提出)

第七 砂鑛法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

鑛業法中改正法律案

鑛業法中左ノ通改正ス

第二條第一項中「石膏及重晶石」ヲ「石膏、重晶石、明礬石、螢石及石棉」ニ、同條第二項中「含油層ト密接ノ關係アル可燃質、天然瓦斯」ヲ「炭化水素ヲ主成分トスル天然瓦斯」ニ改ム

第七條第一項中「其ノ届出ナキトキハ鑛山監督局長之ヲ指定ス」ヲ「代表者ヲ變更シタルトキ亦同シ」ニ改メ同條同項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ

鑛山監督局長必要アリト認メタルトキハ共同鑛業出願人又ハ共同鑛業權者ニ代表者ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第一項前段ノ規定ニ依ル届出ヲ爲サス
又ハ前項ノ規定ニ依ル命令ニ從ハサル
トキハ鑛山監督局長ハ代表者ヲ指定ス
第八條中「勞役者」ヲ「勞働者」ニ改ム

第十條第一項中「竝要塞地帯第一區内」ヲ
削リ同條第二項中「竝要塞地帯第二區及
第三區内」ヲ「要塞地帯第一區及第二區
内」陸軍輸送港域第一區内」ニ改ム

第十二條ノ二 主務大臣及鑛山監督局長
ハ鑛業權者ニ對シ鑛業ニ關シ必要ナル
報告ヲ爲サシメ又ハ當該官吏ヲシテ事
業場、事務所其ノ他必要ナル場所ニ臨
檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ
物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢
檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ
示ス證票ヲ携帯セシムヘシ

第十八條第一項中「二箇年」ヲ「四箇年」ニ
改ム

第二十條中「相續」ヲ下ニ「死亡」ニ因ル共
同鑛業權者ノ脱退」ヲ加フ

第二十四條第二項中「六十日以内」ヲ「三
十日以内」ニ、同條第三項中「仍試掘ヲ要
スルモノト認メタル場合」ヲ「試掘ヲ要ス
ルモノト認メタル場合（第二十九條ノ二
ノ場合ヲ除ク）」ニ改ム

第二十五條第二項中「六十日以内」ヲ「三
十日以内」ニ改ム

第二十九條ノ二 探掘出願地出願ノ當時
其ノ出願人ノ同種ノ鑛物ノ試掘鑛區ト
重複スル場合ニ於テ其ノ重複スル部分

仍試掘ヲ要スルモノト認メタルトキハ
其ノ部分ニ付テハ其ノ出願ヲ許可セス

第二十九條ノ三 試掘鑛權其ノ存續期間滿
了前消滅シ又ハ試掘鑛區ノ減少アリタ
ル場合ニ於テ其ノ試掘鑛權ノ殘存スヘカ
リシ期間又ハ殘存スル期間内（其ノ期
間六十日ヲ超ユルトキハ試掘鑛權ノ消滅
又ハ試掘鑛區ノ減少ノ日ヨリ六十日以
内）ニ同種ノ鑛物ニ付鑛業ノ出願ヲ爲
シタルトキハ舊試掘鑛區又ハ減少部分
ニ該當スル部分ニ付テハ其ノ出願ヲ許
可セス

前項ノ試掘鑛權ノ消滅又ハ試掘鑛區ノ減
少ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ公示ス

第三十一條 鑛業出願地他人ノ異種ノ鑛
物ノ鑛區ト重複スル場合ニ於テ他人ノ
鑛業ニ妨害アリト認メタルトキハ其ノ
妨害アリト認メタル部分ニ付テハ其ノ
出願ヲ許可セス

第三十三條第三項中「第三十一條第二
項」ヲ削ル

第三十三條ノ二ヲ削ル

第三十四條第二項ニ左ノ但書ヲ加フ
但シ試掘鑛權者其ノ鑛區ニ付探掘ノ出願
ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ試掘鑛權消滅
後更ニ試掘ノ出願ヲ爲シタルトキハ此
ノ限ニ在ラス

第三十七條第一項中「第二十五條第一
項」ヲ「第二十四條第一項、第二十五條第
一項、」ニ、同條第二項中「第二十五條第
一項」ヲ「第二十四條第二項又ハ第二十

五條第一項」ニ、「六十日以内」ヲ「三十
日以内」ニ、「探掘鑛」ヲ「鑛業權」ニ改
ム

第三十八條第二項中「六十日以内」ヲ「三
十日以内」ニ改ム

第四十一條中「第七十二條」ヲ「第四十三
條ノ三、第七十二條」ニ改ム

第四十三條ノ二 異種ノ鑛物ノ鑛區重複
スルトキハ其ノ重複スル部分ニ付鑛業
權ノ設定又ハ増區ニ因ル變更ノ登錄ヲ
得タル日ノ後ナル者ハ其ノ先ナル者ノ
承諾ヲ受クルニ非サレハ其ノ部分ニ於
テ鑛業ヲ爲スコトヲ得ス但シ鑛業權ノ
設定又ハ増區ニ因ル變更ノ登錄ヲ得タ
ル日ノ先ナル者ハ正當ノ理由ナクシテ
其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

異種ノ鑛物ノ鑛區重複スル場合ニ於テ
其ノ重複スル部分ニ付鑛業權ノ設定又
ハ増區ニ因ル變更ノ登錄ヲ得タル日同
日ナルトキハ鑛業權者ハ其ノ部分ニ於
ケル鑛業ニ付協議ヲ爲スヘシ

試掘鑛權者試掘鑛權存續期間中同種ノ鑛物
ニ付探掘ノ出願ヲ爲シ其ノ許可ヲ得タ
ルトキハ前二項ノ規定ノ適用ニ付テハ
探掘鑛區ノ中舊試掘鑛區ニ該當スル部
分ニ限り試掘鑛權ノ設定又ハ増區ニ因ル
變更ノ登錄ノ日ヲ以テ夫々ノ部分ニ付
探掘鑛權ノ設定又ハ増區ニ因ル變更ノ登
錄ノ日ト看做ス

鑛區ノ合併又ハ分割アリタルトキハ第
一項及第二項ノ規定ノ適用ニ付テハ合

併又ハ分割ニ因リ消滅シタル探掘鑛權ノ
設定又ハ増區ニ因ル變更ノ登錄ノ日ヲ
以テ夫々ノ部分ニ付合併又ハ分割ニ因
ル探掘鑛權設定ノ登錄ノ日ト看做ス

第四十三條ノ三 鑛區他人ノ異種ノ鑛物
ノ鑛區ト重複スル場合ニ於テ其ノ重複
スル部分ニ於ケル鑛業他人ノ鑛業ニ妨
害アリト認メタルトキハ主務大臣ハ鑛
業權者ニ其ノ妨害ノ排除又ハ鑛業ノ停
止ヲ命スルコトヲ得

第四十四條第一項ヲ左ノ如ク改ム

探掘鑛權者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ施業
案ヲ定メ鑛山監督局長ノ認可ヲ受クヘ
シ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第四十五條第二項ヲ削ル

第七十四條第一項中「二箇年間」ヲ「五箇
年間」ニ改ム

第七十五條 探掘鑛權者ハ鑛夫ノ雇傭及就
業ニ關スル規定ヲ定メ鑛山監督局長ノ
許可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルト
キ亦同シ

第七十九條中「勞役」ヲ「勞働」ニ改ム

第九十條第一項中「第十一條又ハ第三十
六條」ヲ「第十一條、第三十六條又ハ第四
十三條ノ二第一項」ニ改ム

第九十二條ニ左ノ一項ヲ加フ

第一項及第二項ノ規定ハ第四十三條ノ
二第二項ノ協議調ハス又ハ協議ヲ爲ス
コト能ハサル場合ニ之ヲ準用ス

第九十四條 鑛業權ヲ有セスシテ鑛物ヲ
掘採シタル者又ハ詐偽ノ行爲ヲ以テ鑛

業權ヲ得タル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

過失ニ因リ鑛區外ニ侵掘シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十五條中「既ニ之ヲ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ其ノ代金ヲ追徴ス」ヲ「若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス」ニ改ム

第九十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十條第三項、第十一條本文、第四十三條ノ二第一項本文又ハ第四十四條ノ規定ニ違反シタル者

二 第四十三條ノ三、第四十五條、第七十二條、第七十三條第一項又ハ第七十四條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

三 第七十一條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタル者

四 第七十三條第二項ノ規定ニ基キテ管理者ノ職務ニ關シ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタル者

第九十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第四十六條乃至第四十八條ノ規定ニ違反シタル者

二 第七十四條ノ四第三項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

三 第七十五條乃至第七十八條ノ規定

ニ違反シタル者

四 第七十九條又ハ第八十條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者

第九十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十二條ノ二ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタル者

二 第十二條ノ二ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミ、妨ケ又ハ忌避シタル者

三 第五十三條第一項ノ許可ヲ受ケスシテ障礙物ヲ除却シタル者

第九十九條 削除

第一百條 削除

第一百二條 削除

第一百三條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ罰則ハ其ノ者カ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第一百四條第一項中「鑛業權者」ヲ「法人又ハ人」ニ、「本法ヲ犯シタルトキハ」ヲ「本法ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ」ニ、「本法ノ處罰」ヲ「其ノ處罰」ニ改ム

第一百五條中「禁錮又ハ拘留」ヲ「懲役」ニ改ム

第一百六條 削除

附 則

第一條 本法施行ノ期日ハ第十條ノ改正

規定中要塞地帯ニ關スル部分、同條ノ改正規定中陸軍輸送港域ニ關スル部分及其ノ他ノ規定ニ付各別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 本法(第十條ノ改正規定ヲ除ク以下ニ同ジ)施行ノ際現ニ炭化水素ヲ主成分トスル天然瓦斯(含油層ト密接ノ關係アル可燃質天然瓦斯ヲ除ク以下之ニ同ジ)ヲ掘採スル者アル場合ニ於テ其ノ掘採區域他人ノ鑛區ト重複シ且其ノ鑛業權ノ目的石油ナルトキハ當該鑛業權者ハ附則第三條及同第六條ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ權利ヲ制限セララル

第三條 本法施行ノ際現ニ明礬石、螢石、石棉又ハ炭化水素ヲ主成分トスル天然瓦斯ヲ掘採スル者又ハ其ノ承繼人ハ本法施行ノ日ヨリ六月間從前ノ例ニ依リ其ノ掘採ヲ繼續スルコトヲ得其ノ期間内ニ當該掘採者又ハ其ノ承繼人明礬石、螢石、石棉又ハ炭化水素ヲ主成分トスル天然瓦斯ヲ掘採スル爲出願ヲ爲シタル場合ニ於テ許可ノ登錄ノ日又ハ不許可ノ指令ノ日迄亦同ジ

第四條 前條ニ掲グル者本法施行ノ日ヨリ六月以内ニ明礬石、螢石、石棉又ハ炭化水素ヲ主成分トスル天然瓦斯ヲ掘採スル爲出願ヲ爲シタル者ハ其ノ掘採區域ニ限リ第九條第三項、第二十八條、第二十九條及第三十三條ノ規定並ニ第九條第二項ノ鑛區面積ニ關スル規定ニ拘ラズ之ヲ許可ス

第五條 前條ノ規定ニ依リ試掘權ヲ有スル者試掘權存續期間中同種ノ鑛物ニ付掘採ノ出願ヲ爲シタルトキハ其ノ試掘鑛區ト重複スル部分ニ付テハ第九條第三項及第二十九條ノ規定並ニ第九條第二項ノ鑛區面積ニ關スル規定ニ拘ラズ之ヲ許可ス

第六條 前二條ノ規定ニ依ル石油ヲ目的トスル鑛業權ヲ有スル者ハ其ノ鑛區他人ノ鑛區ト重複シ且其ノ鑛業權ノ目的石油ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ於テハ炭化水素ヲ主成分トスル天然瓦斯ノミヲ掘採シ及之ヲ取得スル權利ヲ有ス

第七條 本法施行ノ際現ニ契約又ハ慣習ニ依リ明礬石、螢石、石棉又ハ炭化水素ヲ主成分トスル天然瓦斯ヲ掘採スル者ヨリ代償ヲ受クル土地所有者ハ附則第四條又ハ同第五條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル者ニ對シ右ノ鑛物ノ掘採ニ付相當ノ補償金ヲ請求スルコトヲ得砂鑛法第十三條及第十五條ノ規定ハ前項ノ補償金ニ之ヲ準用ス

第八條 試掘鑛區附則第四條又ハ同第五條ノ規定ニ依ル鑛區ト重複シ且同種ノ鑛物ナル場合ニ於テ其ノ試掘權者試掘權存續期間中同種ノ鑛物ニ付掘採ノ出願ヲ爲シタルトキハ其ノ試掘鑛區ト重複スル部分ニ付テハ第九條第三項及第二十九條ノ規定ニ拘ラズ之ヲ許可ス

第九條 砂鑛法第五條ノ規定ハ附則第四

條又ハ同第五條ノ規定ニ依ル鑛區他人ノ鑛區ト重複シ且同種ノ鑛物ナル場合ニ之ヲ準用ス

第十條 本法施行ノ際現ニ存スル試掘權ノ存續期間ハ本法施行ノ日ヨリ四年トス但シ石油ヲ目的トスル試掘權ニ付テハ主務大臣已ムコトヲ得ザル事由アリト認ムルトキハ四年以内之ヲ延長スルコトヲ得

第十一條 本法施行前第二十四條第一項、第二十五條第一項（第三十七條第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）又ハ第三十八條第一項ノ規定ニ依ル命令アリタル場合ニ於テハ從前ノ第二十四條第二項、第二十五條第二項、第三十七條第二項又ハ第三十八條第二項ノ規定ヲ適用ス

第十二條 本法施行前ニ爲シタル探掘出願ノ出願地出願ノ當時其ノ出願人ノ同種ノ鑛物ノ試掘鑛區ト重複スル場合ニ於テ其ノ重複スル部分仍試掘ヲ要スルモノト認ムルトキハ第二十九條ノ二ノ規定ニ拘ラズ仍從前ノ例ニ依ル

本法施行前ニ爲シタル鑛業ノ出願ニシテ其ノ出願地他人ノ異種ノ鑛物ノ鑛區ト重複スルモノニ於テハ仍從前ノ第三十一條ノ規定ヲ適用ス

本法施行前從前ノ第三十三條ノ二第一項ノ規定ニ依リ爲シタル鑛業ノ出願ニ付テハ仍同條ノ規定ヲ適用ス

本法施行前十日以内ニ試掘權ノ存續期

間滿了シタル場合ニ於テハ仍從前ノ第三十三條ノ二ノ規定ヲ適用ス

第十三條 本法施行前從前ノ第四十四條第一項ノ規定ニ依リ差出シタル施業案ハ同條同項ノ改正規定ニ依リ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第十四條 本法施行前從前ノ罰則ヲ適用スベカリシ行爲ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

砂鑛法中改正法律案

砂鑛法中左ノ通改正ス

第五條第二項中「鑛山監督署長」ヲ「鑛山監督局長」ニ改ム

第九條 砂鑛權ノ出願アリタルトキハ鑛山監督局長ハ其ノ出願地ニ係ル土地所有者、地上權者、永小作權者及土地ニ對シ使用ノ權利ヲ有スル者ニ之ヲ通知スヘシ

第十五條第一項中「鑛山監督署長」ヲ「鑛山監督局長」ニ改ム

第十六條ノ二 砂鑛ノ採取ヲ終リタルトキハ砂鑛權者ハ土地ノ原狀ニ復シ又ハ原狀ニ復セサルニ因リテ生スル損失ニ對シ補償金ヲ拂渡スヘシ

土地所有者、地上權者、永小作權者又ハ土地ニ對シ使用ノ權利ヲ有スル者ハ砂鑛權者ヲシテ前項ノ土地ノ原狀ノ回復又ハ補償金ニ付相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得

前三條ノ規定ハ前項ノ擔保ニ之ヲ準用ス

第十六條ノ三 鑛山監督局長必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ砂鑛權者ヲシテ施業案ヲ定メ認可ヲ受ケヘキコトヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル施業案ヲ變更セムトスルトキハ鑛山監督局長ノ認可ヲ受ケヘシ

鑛山監督局長ハ理由ヲ示シテ施業案ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第一項ノ命令ヲ受ケタル砂鑛權者ハ施業案ニ依ルニ非サレハ砂鑛ノ採取ヲ爲スコトヲ得ス但シ命令ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條ニ左ノ一號ヲ加フ

五 其ノ他砂鑛業上必要ナル工作物ノ施設

第十八條第一項ヲ左ノ如ク改ム

主務大臣及鑛山監督局長ハ砂鑛權者ニ對シ砂鑛業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシメ又ハ當該官吏ヲシテ事業場、事務所其ノ他必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

第十九條中「所爲」ヲ「行爲」ニ、「五百圓以下ノ罰金」ヲ「一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金」ニ改ム

第二十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ六月以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十六條ノ三第一項若ハ第三項ノ規定ニ依ル命令又ハ同條第二項若ハ

第四項ノ規定ニ違反シタル者

二 第二十三條ニ於テ準用スル鑛業法第十條第三項ノ規定ニ違反シタル者

三 第二十三條ニ於テ準用スル鑛業法第七十一條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタル者

四 第二十三條ニ於テ準用スル鑛業法第七十二條、第七十三條第一項又ハ第七十四條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

五 第二十三條ニ於テ準用スル鑛業法第七十三條第二項ノ規定ニ基キテ管理者ノ職務ニ關シ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタル者

第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二十三條ニ於テ準用スル鑛業法第七十五條乃至第七十八條ノ規定ニ違反シタル者

二 第二十三條ニ於テ準用スル鑛業法第七十九條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者

第二十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十八條第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタル者

二 第十八條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ臨檢、搜索又ハ差押ヲ拒ミ、妨ケ又ハ忌避シタル者

三 第十七條ニ於テ準用スル鑛業法第五十三條第一項ノ許可ヲ受ケスシテ障礙物ヲ除却シタル者

第二十三條中「第七條第一項第二項、」ヲ「第七條第一項乃至第四項、」ニ、「第七十二條 第七十四條、」ヲ「第七十一條乃至第七十四條ノ三、第七十四條ノ八乃至第七十四條ノ十五、第七十六條乃至第七十九條、」ニ、「第三百三條及第四百四條」ヲ「及第四百三條乃至第四百五條」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

鑛業法第七十五條ノ規定ハ命令ヲ以テ定ムル砂鑛業ニ關シテ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行前ニ爲シタル砂鑛權ノ出願ニ付テハ仍從前ノ第九條ノ規定ヲ適用ス
本法施行前從前ノ罰則ヲ適用スベカリシ行爲ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル
工業労働者最低年齡法第三條中「工場法施行令又ハ鑛業法」ヲ「工場法施行令、鑛業法又ハ砂鑛法」ニ改ム

〔政府委員加藤鐵五郎君登壇〕

○政府委員(加藤鐵五郎君) 只今議題トナリマシタ鑛業法中改正法律案及ビ砂鑛法中改正法律案ニ付テ提案理由ヲ御説明致シマス、鑛業法及ビ砂鑛法ハ鑛業及ビ砂鑛業ヲ規律スル基本法規デアリマス、隨テ其ノ内容ノ如何ガ斯業ニ重大ナル關係ヲ有スルコトハ言フヲ俟タナイ所デアリマス、然レニ現行ノ鑛業法及ビ砂鑛法ハソレノ明治三

十八年及ビ明治四十二年ニ制定セラレマシテ以來、既ニ三十年餘ノ歲月ヲ閱シテ居ルノデアリマシテ、今日ノ情勢カラ之ヲ見マスルト、此ノ際改正ヲ必要トスル點ガ少クナイノデアリマス、本法律案ハ是等ノ諸點ニ付キマシテ各條ニ互リ必要ナル改正ヲ爲サントスルモノデアリマス

鑛業法中改正法律案ノ内容ノ第一ハ試掘權制度ニ關スルモノデアリマス、現行ノ鑛業法ニ於キマシテハ、試掘權ハ二箇年ノ期間ヲ附セラレテ居ルノデゴザイマスルガ、此ノ期間滿了後舊試掘權者ガ十日以内ニ更ニ出願ヲ致シマスナラバ、他ノ出願人ニ優先シテ權利ヲ付與セラレルコトナツテ居ルノデアリマス、其ノ爲ニ試掘權ハ之ヲ殆ド無期限ニ延長シ得ルト云フ結果トナルノデアリマス、現ニ試掘權ガ設定セラレテ居リナガラ、事實ハ試掘ガ行ハレナイト云フ實例モ決シテ少クナイデアリマシテ、試掘權制度本來ノ趣旨ガ著シク沒却セラレテ來タノデアリマス、斯ル事實ニ鑑ミマシテ、

本法律案ニ於キマシテハ、試掘權ノ期間ハ現行法ノ二箇年ヲ延長致シマシテ、之ヲ四箇年ニ致シマスルト共ニ、再度出願ノ場合ニ於テ舊試掘權者ニ認メラレテ居リマスル優先權ハ、之ヲ廢止スルコトト致シマシテ、以テ試掘權制度本來ノ趣旨ニ副ハシメントスルモノデアリマス

第二ハ法定鑛物ノ追加ニ關スルモノデアリマス、最近ノ調査ニ依リマスレバ、現在鑛業法ノ適用外ニ在ル鑛物ノ中デモ、明礬

石、螢石及ビ石棉ノ如キハ相當ノ埋藏量モ推定セラレ、又近キ將來ニ於テ相當ノ產出ヲ豫想セラレルニ至ツタノデアリマシテ、此ノ際等は等ノ鑛物ヲ鑛業法上ノ鑛物トシ、以テ法律ノ保護監督ノ下ニ其ノ合理的開發ヲ圖ラントスルモノデアリマス、尙ホ現在ノ鑛業法ニ於キマシテハ含油層ト密接ノ關係ヲ有スル可燃質天然瓦斯ノミハ、石油ト看做サレテ居ルノデアリマスルガ、近時炭化水素ヲ主成分トスル天然瓦斯ハ、其ノ利用法ガ大イニ開拓セラレ、天然資源トシテ極メテ重大ナル意義ヲ有スルニ至リマシタノデ、此ノ際含油層ト密接ナル關係ノ有無ニ拘ラズ、炭化水素ヲ主成分トスル天然瓦斯ハ、全部之ヲ石油ト看做スコトト致シタノデアリマス

第三ハ異種鑛物ノ鑛業權ニ關スルモノデアリマス、現行鑛業法ニ於キマシテハ、鑛區ニ重複シテ異種鑛物ノ出願ガアリマシタ場合ニハ、鑛山監督局長ガ其ノ旨ヲ鑛業權者ニ通知シ、當該鑛業ガ出願ヲ致シマスルト、其ノ者ノ出願ガ優先的ニ許可セラレルト云フ建前ニナツテ居ルノデアリマス、斯ル制度ハ半面ニ於テ鑛物資源ノ發見並ニ開發ノ促進スル上ニ於テ、遺憾ノ點ガ存スルノデアリマス、右ノ事實ニ鑑ミマシテ本法律案ニ於キマシテ此ノ優先權ヲ撤廢スルコトトシ、鑛業出願地ガ他人ノ異種ノ鑛物ノ鑛區ト重複スル場合ニ於キマシテハ、他人ノ鑛業ニ妨害ナキ限り、先願順ニ之ヲ許可スルコトト致シタノデアリマシテ、之ニ依リマシテ資源開

發ノ趣旨ヲ徹底セシメントスルモノデアリマス、併シナガラ是ガ爲ニ既存ノ鑛業權者ノ作業ニ妨害ヲ與フルガ如キコトハ、嚴ニ之ヲ戒メナケレバナラス所デアリマスルカラ、本法律案ニ於キマシテハ、此ノ點ニ付キマシテモ必要ナル規定ヲ設ケテ居ル次第デアリマス、右申述ベマシタ事項ノ外ニ鑛業法中改正法律案ニ於キマシテハ、鑛業警察ニ關スル規定ヲ整備シ、以テ危害ノ豫防ニ遺憾ナキヲ期スルト共ニ、罰則ヲ適當ニ改正スル外、尙ホ必要ナル事項ニ付適當ナル改正ヲ加ヘテ居ルノデアリマス

砂鑛法中改正法律案ノ内容ノ第一ハ、砂鑛出願ニ關スルモノデアリマス、現行法ニ依リマスレバ、砂鑛出願地ガ他人ノ所有ナル場合ニハ、出願人ハ土地所有者ノ承諾ヲ受クルコトヲ要スルノデアリマシテ、此ノ場合土地所有者ハ自ら砂鑛ノ採取ヲ出願スレバ、其ノ承諾ヲ拒ミ得ルコトナツテ居ルノデアリマス、併シナガラ砂鑛出願ニ當リマシテ、土地所有者銘々ノ承諾ヲ受ケルト云フコトハ事實上極メテ困難デアリマシテ、是ガ爲砂鑛採取ノ許可ガ著シク遲延致シマスルノミナラズ、此ノ場合ニ土地所有者各自ニ砂鑛ノ採取ヲ許可スルト云フコトデハ、砂鑛ノ合理的開發ハ望ムベクモナイノデアリマス、仍テ本法律案ニ於キマシテハ、砂鑛ノ出願ガアリマシタ場合ニハ、鑛山監督局長カラ土地所有者及ビ關係人ニ其ノ旨ヲ通知スルコトト致シマシテ、土地所有者各自ノ承諾ハ之ヲ必要トセザルコト

ト致シタノデアリマス、併シナガラ是ハ要スルニ砂鑛權設定ノ手續ノミニ關スルモノデアリマスルカラ、砂鑛權者ガ實際砂鑛ヲ採取スル場合ニ於キマシテハ、土地所有者及ビ關係人ノ利益ハ十分ニ之ヲ保護シナケレバナラスノデアリマス、現行砂鑛法ハ此ノ點ニ付テ十分ノ規定ヲ設ケテ居ルデアリマスルガ、砂鑛ノ採取ヲ終ツタ後ノ砂鑛權者ノ補償義務ニ付テハ、必ズシモ明確ナラザルモノガアリマスルノデ、本法律案ニ於キマシテハ此ノ點ヲ明確ニ規定致シタモデアリマス

第二ハ砂鑛業ノ助長監督ニ關スルモノデアリマス、最近砂鑛業ノ次第ニ大規模ニ行ハレントスル趨勢ニ鑑ミマシテ、本法律案ハ一方ニ於テ砂鑛業ノ爲ニ土地使用ヲ爲シ得ル場合ヲ擴張致シマシテ、砂鑛業ノ助長ニ資スルト共ニ、他方砂鑛業ニ付テノ危害ノ豫防、砂鑛業ニ從事スル勞働者ノ保護、砂鑛業ニ因ル損害ノ賠償等ニ付規定ヲ設ケルコトトシ、以テ其ノ監督ニ遺憾ナキヲ期スルコトト致シタノデアリマス、尙ホ罰則ニ付キマシテモ適當ナル改正ヲ加ヘタ次第デアリマス

以上ノ理由ニ依リマシテ茲ニ此ノ二法律案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、何卒速カニ御審議ノ上御協賛アラントヲ希望致シマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 質疑ノ通告ガアリマス、順次之ヲ許シマス、商工大臣ハ税制ノ委員會ニ出席中デアリマスガ、尙ホ出席ヲ

要求シテ居リマス——高橋壽太郎君

(高橋壽太郎君登壇)

○高橋壽太郎君 私ハ只今議題トナリマシタル鑛業法中改正法律案ニ付一二ノ質疑ヲ試ミ、更ニ進ンデ鑛業政策ノ一般ニ關シテ政府ノ所信ヲ質サントスル者デアリマス、唯時間ノ關係カラ所々言葉ヲ省キマスノデ、飛ビ／＼ニナリマシテ御聽キ辛イカト存ジマスガ、賢明ナル政府當局ハ其ノ點ヲ平ニ御諒察願ヒタイノデアリマス

先ヅ私ノ質問ノ要項ヲ最初ニ御披露致シマシテ、次イデ質問要旨ノ説明ニ入ラント存ジマス

(議長退席、副議長著席)

質問事項

一 試掘權制度變革ニ關スル件

イ 資金、技術、勞力、資材、運輸ノ關係上現時局下ニ於テ試掘ヲ四年以内ニ完了スルハ困難ナリト思惟ス、政府ノ所見如何

ロ 試掘權制度ノ變革ハ弱小鑛業者ヲシテ鑛山探檢ノ熱意ヲ失ハシメ、大鑛業者ニ對シテハ豫備鑛區ノ喪失ニ伴フ事業計畫ノ減却トナリ、我國鑛山業ノ大頓挫ヲ招來スルノ虞ナキカ、此ノ種ノ變革ヲ行ハザルモ現行法規ノ運用ニ於テ優ニ休眠鑛區ノ活動ヲ促シ得ベシ、隨テ本制度改革ノ必要ナキニアラザルヤ

二 鑛業法中ニ鑛業權確保ノ規定ヲ設クルノ件、輒近水力發電事業ノ發展ニ伴ヒ電力國策ノ名ヲ藉リ無斷鑛區内ニ水路ヲ掘鑿シ、鑛業權ヲ侵害スル者アリ、右ニ對スル鑛業權確保ノ方策如何、又右水路等出來ノ場合鑛業權者ハ逆ニ鑛業法第十一條ノ適用ヲ受クルノ虞ナキヤ

三 日本產金振興株式會社ノ機能發揮ニ關スル件、同會社法第二十五條ニ基ク損失補償ヲ同社經營ノ金精鍊事業ノミニ限ラズ、社外一般ノ探鑛、選鑛事業ニ對スル融資及ビ投資ニ付テモ補償ヲ爲スベキニアラザルカ

四 帝國鑛業開發株式會社ノ機能發揮ニ關スル件、同社ノ事業經營方針ニ於テ炭坑及ビ鐵鑛ノ開發ヲ除外スルガ如キハ現時局下ノ情勢ニ順應セザルノ憾アリ、仍テ資本金ヲ倍加シ是等ノ開發ニ當ラシムベキニアラザルカ

五、日本產金振興、帝國鑛業開發兩株式會社合同ニ關スル件、右兩社ハ事業ノ性質上分立ヲ不可トスルモノナリ、仍テ之ヲ合同シ綜合的能力發揮ヲ企圖スベキニアラザルカ

六、大藏省ガ日本產金振興株式會社共管ニスルノ件、大藏省ハ產金法ニ基キ金ヲ收用スレバ可ナリ、敢テ生産方面マデ介入スルハ適當ナラズト認ム、政府ノ所見如何

以上デアリマス、先ヅ第一ニ伺ヒタイノハ、試掘權制度ノ變革デアリマス、試掘權制度ハ從來其ノ存續期限ハ二箇年デアリマスガ、

期限滿了後ト雖モ前鑛業權者ハ出願ニ對シテ優先權ヲ與ヘラレテ居ツタノデアリマス、隨テ引續キ試掘權ノ許可ヲ得テ、其ノ事業ヲ進メルコトガ出來タノデアリマス、此ノ度ノ改正ハ試掘權ヲ四箇年ニ延長シ、前鑛業權者ノ再出願ニ對シテ其ノ優先權ヲ認メナイノデアリマス、即チ四箇年デ打切ツテ之ヲ取上ゲルト云フ案デアリマス、是ハ只今政府委員ヨリ御説明ガアリマシタ通り、休眠鑛區ヲ活動サセ、重要鑛物増産ノ目的ヲ達成セントスルニ基クモノデアリマセウガ、恐ラクソレハ楯ノ半面ダケヲ見タダケデアツテ、一方の見解ニ過ギナイ、恐ラク重要鑛物ノ生産ハ、却テ減少ヲ見ルノデハナカラウカト惧レラレルノデアリマス、一體政府ハ此ノ種ノ變革ヲ試ムル以上、現時局下ニ於テモ十分ニ試掘ガ出來ルト云フ可能性ガ確カト認メテ居ルノデアルカ、其ノ點ヲ先ヅ叩イテ見ナケレバナリマセヌ、四箇年間ニ試掘ガ完了出來ル方否ヤハ、少クトモ次ノ五ツノ項目ニ付テ十分ノ成算ガ立たネバナラスノデアリマス、即チ第一ニ資金、第二ニ技術、第三ニ勞力、第四ニ資材、第五ニ運搬ノ關係デアリマス、是等ノ項目ガ具足シナイ限りハ、試掘ノ完了ヲ期スルコトハ至難ナノデアリマス

先ヅ試掘ノ爲ノ資金ヲ得ルコトハ、今日ノ狀態ニ於テドウ云フ風ニナツテ居ルカト申シマス、恐ラク是ハ事變前ト大差ガナイト思ヒマス、銀行ハ勿論ノコト、日本產金振興會社、帝國鑛業開發會社ト雖モ、中

中此ノ試掘ノ融資ハ致サナイノデアリマス、一體試掘權者ハ早く探掘ヲ行ツテ、試掘ヲ完了シタイノハ山々デアリマス、何トナレバ鑛山開發ヲ資金ヲ仰グ爲ニハ、其ノ鑛物ノ品位ト鑛量トヲ明ニ突キ止メテ、之ヲ出資者ニ示サナケレバナリマセヌ、又此ノ山ヲ賣ル、即チ賣山ノ場合デアツテモ、其ノ要件ガ滿サレナケレバ山ヲ買フ者ハナイノデアリマス、探掘不十分ノ山ハ殆ド二東三文ニ踏ミ倒サレテシマフノデアリマス、隨テ試掘權者ハ血眼ニナツテ試掘探掘ノ資金ヲ得ヨウト、色々ト奔走ヲシテ居ルノデアリマスガ、何分ニモ仕事ハ世ニ謂フ山師ノ仕事デアリマス、海ノモノト山ノモノトモ付カナイ新山ニ、融資ヲスルト云フ篤志家ハ甚ダ少イノデアリマス、恐ラク群小ノ鑛業權者ハ此ノ資金ヲ得ル爲ニ、半年ナリ一年ナリ人並ナラヌ苦勞奔走ヲ續ケルコトガ、實際ノ狀況デアラウト思ヒマス、故ニ政府ガ試掘ヲ四箇年ニ完了セシムルト云フノデアラナラバ、政府トシテモ試掘ニ要スル資金ノ融通ノ途ヲ開イデヤラナケレバナリマセヌガ、政府ハ果シテ其ノ御用意ガアリマスカ否カ

次ニ技術ノ問題デアリマス、昨今鑛山技術家ハ非常ニ拂底シテ居リマシテ、大鑛業者ト雖モ容易ニ其ノ人ヲ得ルコトハ難カシイノデアリマス、カルガ故ニ厚生省デハソレノ割振リニ隨分眼ヲ廻ハシテ居ラレルヤウナ事情ニアルノデアリマス、隨ヒマシテ弱小鑛業權者ガ有能ナル技術家

ヲ得ルト云フコトハ、亦至難デアルト申サナケレバナリマセヌ、技術家ナクシテ試掘ガ四箇年ニ完了スルト云フコトハ、木ニ縁リテ魚ヲ求ムルノ類デアリマス、一體政府ハソレ等ノ所要ノ技術家ヲ、是等ノ鑛業權者ニ萬遍ナク都合シテヤル用意アリヤ否ヤ

次ハ努力ノ問題デアリマス、努力殊ニ鑛夫ノ不足ハ隨分甚シイモノガアリマス、引張り合ヒノ結果鑛夫ノ移動ハ一年間二百「パーセント」ニ達シ、一向腰ガ落付カナイ、能率ノ低下亦甚シキモノガアルノデアリマス、是デハ資本ガアリ、技術ガアツタシテモ、試掘ノ完了ヲ望ムコトハ至難ト申サナケレバナリマセヌ、政府ハ努力調整ニ關シ、何等カノ新工夫ヲ御持合セデアリマスカ否カ

第四ノ資材關係、是モ亦甚シク逼迫シテ居リマス、昨今大問題トナツテ居リマス石炭ノ問題ニモ關聯スルノデアリマスガ、此ノ石炭ヲ何ヨリモ優先シテ掘ラナケレバナラスト云フ其ノ際、炭鑛業者ニ對シ、之ニ供給スル資材ガ所要額ノ半分ニモ足りナイト云フコトハ、政府モ先刻御承知ノ筈デアリマス、一體政府ハ無ヨリ有ヲ生ズルヤウナ、何ガシカノ奇策ヲ持ツテ居ラレルカドウカ

最後ノ運輸ノ關係ハ「トラック」輸送ノ不如意、其ノ運賃ノ三倍乃至四倍ノ暴騰、是ハ試掘ノ進捗ニ少カラザル影響ヲ與フルモノデアリマス、政府ハ是等ノ改善策ニ對シテ、何等カノ良策ヲ有セラレルヤ否ヤ
以上ノ諸點ヲ要約致シマス、今日ノ情

勢ニ於テハ四箇年ノ努力ヲ積ミマシテモ、恐ラク事變前ノ二箇年分ノ效率ヲ擧ゲルコトハ困難デアリマセウ、政府ハ一體何ノ見ル所ガアツテ四箇年デ打切ルノ變革ヲ行ハントスルノデアアルカ、吾人ノ了解シ能ハザル所デアリマス、今日ノ大鑛山ハ概ネ十數年或ハ數十年ノ年所ヲ經テ、漸次開發ニ向ツタノデアリマス、恐ラク四箇年デ試掘ヲ完了シテ探掘ニ入ツタト云フ山ハ、極メテ數ガ少カラウト存ジマス

以上ハ群小ノ資力薄弱ナル鑛業者ノ事情ニ即シテノ質問デアリマスガ、大鑛業者ト雖モ亦別ノ意味ニ於テ、此ノ試掘權ノ大變革ニハ當惑シテ居ルノデアリマス、何トナレバ大規模ノ鑛業ヲ行フニハ、相當ノ豫備鑛區ヲ保有シテ置カナケレバナラスノデアリマス、斯クシテ長年月ニ亙ル大事業計畫ガ樹立サレルノデアリマス、然ルニ此ノ豫備鑛區ヲモ取上ゲラレタノデハ、爾後鑛山業ノ發展ト云フコトハ恐ラク期待スルコトハ出來マスマイ、尤モ此ノ試掘鑛區ヲ探掘鑛區ニ致シマスレバ、永久ニ之ヲ保留シ得ルノデアリマスカラ、恐ラク鑛業權者ハ試掘ヲ探掘ニ直スデアリマセウ、此ノ結果ハ政府ハ鑛區稅ニ於テ、探掘稅ハ試掘稅ノ二倍デアリマスカラ、茲ニ鑛區稅ノ增收ヲ圖ルコトニナル、此ノ案ハ一面カラ見マス

ト、何ヤラ鑛業法ノ改正ニ依ル増稅案ノヤウニ見エマス、一石二鳥トハ正ニ斯ウ云フコトヲ言フノデアリマセウ、併シナガラ今ノ豫備鑛區ヲ假ニ探掘鑛區ト直シマシ

タ所ガ、事實一舉ニ是ガ探掘出來ルモノデハアリマセヌ、依然休眠ノ狀態ニ置カレテアルノデアリマスガ、政府ハ探掘ノ實ナキ是等ノ探掘鑛區ヲ如何ニ處斷セントスルノデアアルカ、私ノ聽カント欲スル所デアリマス、現行鑛業法ニ依リマス、事業ニ著手セザル故ヲ以テ、探掘ノ許可ハ一箇年ノ後ニハ沒收セラルルノデアリマス、政府ハ是等ノ大鑛業ニ對シテ如何ナル方針ヲ以テ臨マレルカ、幾多ノ疑義ヲ存スルノデアリマス

更ニ第五點ノ御尋ハ、試掘權制度ノ變革ハ鑛山探險家ノ熱意ヲ沮喪セシメル、其ノ結果我國ノ鑛山業ノ發展ヲ阻碍スルコトニナルガラウト云フコトガ虞レラレルノデアリマス、何ト申シマシテモ今日ノ大鑛山ハ、是等ノ山師ト稱セラルル鑛山探險家、是等ノ「パイオニヤ」ノ手ニ依ツテ發見セラレ、ソレガ試掘鑛區トナリ、開發半バニシテ其ノ試掘鑛區ガ轉々シ、其ノ間漸次開發セラレテ漸ク物ニナリ掛ケク時ニ、大鑛業者ノ買收スル所トナツテ、開發ヲサルルノデアリマス、一將功成ツテ萬骨枯ル、正ニ其ノ通りデアリマス、一體大軍ヲ動カスニハ斥候ヲ用ヒ、尖兵ヲ使ハナケレバナナイノデアリマス、然ルニ此ノ鑛山探險ノ尖兵タリ斥候タルベキ末梢神經ヲ麻痺セシメテ、不感症狀態ニナツタ我ガ鑛業界ガ、果シテ將來ノ發展ヲ企圖セラルルデアリマセウカ、思ハザルノ甚シキデアルト存ジマス

第六點ニ御尋致シタイコトハ、現行ノ鑛

業法ノ法規ヲ以テシテモ、休眠鑛區ノ活動ヲ促スベキ規定ハ完備シテ居ルノデアリマス、即チ鑛業法第四十條ノ條文ニ「鑛業權者正當ノ理由ナクシテ登錄ノ日ヨリ一箇年以內ニ事業ニ著手セス若ハ一箇年以上休業シタルトキハ主務大臣ハ鑛業權ヲ取消スコトヲ得」是程恐シイ規定ハナイ、是サハ嚴肅ニ適用セラルルナラバ、休眠鑛區ヲ云々スル事態ハアリ得ナイ筈デアリマス、然ルニ法ハ設ケテソレヲ運用シナイデ、之ヲ試掘權ノ大變革ニ求メテ、自動的ニ試掘權ヲ奪取スルガ如キ立法ハ、果シテ適切ナリヤ否ヤ、況ヤ一昨年制定サレマシタ五箇年據置ノ臨時立法デアル重要鑛物増産法、是ハ未ダニ有効期限内ニアルノデアリマスガ、是等ノ規定ニハ以上ノ鑛業權ニ對スル監督管理ノ規定ガ強化サレテアルノデアリマス、ソレデモ足りナイデ屋上屋ヲ架シ、法ノ上ニ法ヲ重ネテ一體何ヲナサルノデアリマセウカ、吾人ノ解シ能ハザル所デアリマス

第七點ハ、試掘制度ノ變革ハ前申上デマシタ通り餘リニモ副作用ガ大キイ、副作用ノ多イ藥ハ良藥デハアリマセヌ、隨テ副作用ノ多イ立法ハ良法デハアリマセヌ、角ヲ矯メテ牛ヲ殺スガ如キコトハ避ケネバナリマセヌ、世ノ革新政策ハ動モスレバ此ノ嫌ヒガ多イノデアリマス、「アスピリン」ヲ吞ンデ風邪ハ癒ツテモ、其ノ爲ニ心臟ヲ惡クスルヤウデハ困ルノデアリマス、試掘權制度ノ變革モ餘リ副作用ガ多イバカリデハナク、必ズシモ此ノ種ノ改正ヲ必要トシナイ

ノデアリマスカラ、政府ハ此ノ際試掘制度ノ變革ヲ思ヒ止マラレテハ如何デアリマセウ

鑛業法ニ對スル他ノ質問ハ同法第十一條ニ關聯スルモノデアリマス、即チ第十一條ハ鐵道、軌道、道路、運河、堤防等ノ營造物ニ對シテハ地表地下トモ其ノ周圍三十間以內ノ場所ニ於テハ所轄官憲ノ許可、所有者及關係人ノ承諾ヲ受クルニ非サレハ鑛業ヲ爲スコトヲ得ストアリマス、是ハ全ク鑛業權ノ行使ヲ制限シテ居ルモノデアリマス、然ルニ斯ウ云フ制限ハアリマスガ、反對ニ鑛業權ノ確保ニ付テハ鑛業法中何等ノ規定モナイト云フコトハ甚ダ心細イ至リデアリマス、鑛業法ノ改正ハ宜シクイノ一番ニ此ノ點ニ留意スベキデアリマスマイカ、ヨク議會デ耳ニ致シマス不脅威不侵略ト云フコトヲ、海軍ノ國防方針デ述ベラレルノデアリマス、言葉ハ少々足ラナイ所ガアツテ拙イノデアリマスガ、其ノ意味ハ、他ヲ侵略セザル代リニ他ヨリモ脅威サレナイト云フ意味デアリマス、我が鑛業法ハ他ヲ侵略シナイ、不侵略デハアリマスガ、他ヨリノ脅威ニ對處スル心構ヘガナイノデアリマス、正ニ片手落デアル、輓近水力發電ノ發達ニ伴ヒマシテ、電力國策ノ名ノ下ニ理不盡ニモ鑛業權設定ノ鑛區内ニ立入り、水路若クハ隧道ヲ掘鑿シテ憚ラザルモノガアリマス、而モ鑛業權者ニ對シテ一應ノ挨拶ナキノミナラズ、鑛業權者ヨリ鑛業權確保ノ爲ニ之ニ抗議スルコトガアリマス、彼等ハ電

力國策ノ必要ヲ説キ、只デ探鑛ヲシテヤルノダカラ文句ハナカラウト云フヤウナ逆振デヲ喰ハスノデアリマス、此ノ實例ハ今ヤ所在ニ散見シテ居ル所デアリマス、彼ニ電力國策ガアルナラバ、我ニ又產金國策アリ、何ヲカ讓ランヤデアリマス、此ノ兩國策ノ兩全ノ途ヲ圖ルニハ、先ヅ多クノ場合電力側ガ讓歩シテ鑛業ノ妨害トナラヌヤウニ水路ヲ他ニ變更スルノ外ハナイノデアリマス、何故ナレバ水路ノ變更ハ多少ノ迂回ハ免レマセヌガ、併シ發電ノ方ニハ影響ガ殆ドナイノデアリマス、之ニ反シテ鑛山ノ方ハサウハ參リマセヌ、探掘ノ箇所ヲ變更シテ他ノ場所カラ鑛石ヲ掘ルト云フ譯ニハ參リマセヌ、然ルニ世上ノ實例ハ却テ是ガ反對デ、結局鑛業權者ハ或ル地域ニ於ケル鑛石ノ採取ガ不可能トナリ、坑道作業及ビ坑内鑛石運搬等ニ甚シキ妨害ヲ受クルモノガ少クナイノデアリマス、殊ニ恐ルベキハ、此ノ水路問題ヲ押問答ヲシテ居ル間ニ、先様デハ容赦ナク其ノ工事ヲ進メテ行ク、サウシテ既定事實トシテ我ニ臨ミ、逆ニ此ノ鑛業法第十一條ノ適用ヲ求ムル所ノ處ガ多分ニアルノデアリマス、政府ノ之ニ對處スル方針如何、鑛業法ノ改正ハ、試掘權制度ヲイデタルヨリモ、是等ノ點ニ考慮スベキデアリマスカツタデアリマセウカ、吾々ハ斯ウ考ヘザルヲ得ナイノデアリマス、以上ハ鑛業法改正ニ關スル質問ノ要點デアリマス

私ハ此ノ機會ニ於テ鑛業政策ノ一般ト、特殊國策會社ノ指導方針ニ關シテ政府ノ所見ヲ質問スル者デアリマス

第一ハ日本產金振興會社ノ機能ヲ發揮スル件デアリマス、即チ同會社法第二十五條ノ規定ニ伴フ損失補償ハ、廣汎ナル範圍ニ互ルモノト解釋スベキモノデアリマスガ、政府ハドウ云フモノカ、其ノ補償ニ關シテハ、同會社法第十二條同社ノ經營事業タル金精鍊ノミニ對シテ補給ヲ限定シテ居ラルルノデアリマス、此ノ補償額ハ昭和十五年度ニ於テ百五十一萬圓デアリマス、政府ハ現下時局ノ情勢ニ鑑ミテ、同條第一項ノ金鑛業全般ニ對スル資金ノ融通又ハ投資ニ對シテモ補償ヲスルコトニ改メラレテハドウカ、兎角政府ノ方針ハ消極的デアリ小乘的デアリマス、ナゼモツト積極的ニ且ツ大乗的ニ產金増加ノ方途ヲ講ジナイノカ、折角日本產金振興會社ヲ創立シテモ、是デハ佛ヲ作ツテ魂ヲ入レナイコトニナル、作ツタ以上ハ大イニ活動ヲ促スベキデアラウト思ヒマス、ドウモ政府當局ハ今日ノ時局ノ認識ニ於テ、吾々ト變ツタ點ガアルノデヤナイカト云フコトヲ思ハセラレルノデアリマス、金資金ノ乏シイ爲ニ、今ハ物資ノ輸入ヲ差控ヘ、軍需民需共ニ不足懸デアリマス、軍需品ノ方ハ軍機上ノ機密デアリマスカラ其ノ消息ハ分リマセヌガ、民需ノ必需品タル綿、護謨ノ類、殊ニハ釘ノ拂底、或ル地方デハ葬式ノ棺ニ打ツ釘ニスラモ缺乏シテ居ルト云フ狀況ニアリマス、金サヘアレバ物資ヲ輸入スルコトモ出來ルノデアリマス、金サヘアレバデアリマス、故ニ政府ハ此ノ

ノ方ガ遙ニ多イコトハ周知ノ事實デアリマス、即チ産金ノ大部分ト云フモノハ銅製鍊ノ副産物ノ形デ生産サレルノデアリマス、是等ノ點ヲ綜合致シマスレバ、金ノ生産ハ他ノ銅、其ノ他ノ非鐵金屬ノ生産ト不可分ノ關係ニアリノデアリマス、故ニ之ヲ日本産金振興會社或ハ帝國鑛業開發會社ニ分割スルト云フコトハ、理由ノナイコトデアリマス、一所ニ同棲スベキモノヲ別々ニ別居サセ、生木ヲ裂クヤウナ無理ナリ方ハヤルベキデアリマセヌ、政府ハ此ノ際速ニ是ガ併合統一ヲ圖リ、且ツ之ヲ擴大強化シテ、大イニ我國産金ノ増加、重要鑛物ノ増産ノ爲ニ努力セネバナラスト存ジマス、若シ夫レ創業日尙ホ淺キヲ以テ、其ノ成績ヲ見タ上ニスルナドト云フ御答辯デモアリマスタラバ、私ハ洵ニソレヲ心外ニ存ジマス、善ハ急ゲ、一日モ早く思切ツテヤルコトガ上々ノ策デアラウト存ジマス、但シ茲ニ合併ノ故障トナラウト思ハレルノハ、日本産金振興會社ガ商工省ト大藏省トノ共管ニナツテ居ルコトデアリマス、恐ラク此ノ方面カラ反對ガ起リサウニ思ハレルノデアリマス、併シ大藏省ハ何ト申シテモ産金ノ技術的方面ニ關シテハヅブノ素人デアリマシテ、何等ノ機關モ「スタッフ」モ持ツテ居ラナイ、デアリマスカラ大藏省ハ宜シク産金ノ技術方面ハ總テ之ヲ商工省ニ一任シ、大藏省自身ハ所謂餅屋ノ餅ヲ食フダケ宜カラウト思フ、兎モ角我ガ領土内ニ生産サレタ金ハ、産金法ノ規定ニ基キ、其ノ全部ガ一箇月以

内ニ大藏省ニ收用セラレルノデアリマスカラ、何モ勝手モ分ラナイ金生産ノ技術方面ニマデ立入ル必要ハナイノデアリマス、昭和十五年年度豫算ヲ見マスト、金資金特別會計ヨリ、産金獎勵ノ爲ト云フ項目デ一般會計ニ千三百萬圓、朝鮮總督府特別會計ニ一千万圓ノ繰入ガアリマス、恐ラク大藏省ハ此ノ持參金ノ代償トシテ共管ヲ必要トスルノデアリマセウ、一應ノ理由ハアルヤウデアリマスガ、若シ産金國策ガ緊急ノ大事デアラナラバ、堂々ト一般會計ヨリ支出スベキデアリマシテ、金資金特別會計ヨリ賸餘金ヲ貰フ必要ハナカラウト思フ若シ又産金ガ大藏省トハ切ツテモ切レナイ特別ノ關係ガアルト云フ故ヲ以テ、強ヒテ共管ヲ主張スルナラバ、ソレハ理不盡デアリマス、何トナレバソシナコトガ許サレルトシタナラバ、厚生省ハ國民ノ食糧確保ノ爲ニ、米穀配給會社ノ共管ヲ主張シナケレバナラストニナリマス、又陸海軍ハ重工業ノ發達ハ國防上重大デアラルコト云フ理由ヲ以テ、日本製鐵會社ヲ共管トスルコトニシナケレバナリマセヌ、斯ノ如キハ政治ノ紛更、天下亂雜ノ基トナリマス、サウマデシナクトモ、大藏省ハ政府出資ノ大株主デアリマシテ、特殊會社ニ君臨スルコトガ出來ルノデアリマスカラ、大抵ノ希望ハ實現セラレル筈デアリマス、以上ノ次第デ兩會社合併ト否トニ拘ラズ、大藏省ノ共管ハ此ノ際廢止スベキデアリマス、政府ノ所見果シテ如何

最後ニ昭和十五年度商工省豫算中、産金及ビ重要鑛物増産ニ關スル經費ヲ拾ヒ集メテ見マスト、産金獎勵ニ關スル經費八百四十二萬圓ヲ筆頭トシテ、其ノ他各種重要鑛物増産ノ諸經費ヲ通計スルモ千二百萬圓程度デアリマス、然ルニ朝鮮總督府豫算ニ於テハ、産金ニ關スル獎勵費ダケデモ二千五百萬圓ニ達スルノデアリマス、中ニハ金山道路改修費補助トシテ五百萬圓ヲ計上シテ居ルコトハ刮目スベキデアリマス、是ハ内地ニ比シテ朝鮮ノ産金額ガ多イ關係モアリマセウガ、又是等ノ保護獎勵ニ依ツテ、朝鮮ノ産金ガ益々増加ノ趨勢ニアルトモ見ラルベキモノデアリマス、ドウカ我ガ商工省モ朝鮮總督府ニ負ケナイデ、産金ノ増加ニ對シテハ大イニ努力セラレジコトヲ望ム、デアリマス(發言スル者アリ)御靜ニ願ヒマシ、今金山道路ノコトヲ申シタノデアリマシガ、農林省ハ多年ニ互リ機會アル毎ニ全國ニ幾千里ニ互ル林道ヲ開設致シマシタ、ソレガ今日農山村ノ産業開發、文化交通ニ寄與シテ居ルコトハ莫大デアルバカリデナク、鑛物ノ探鑛ニモ是ガ爲ニドレダケ便宜ヲ得テ居ルカ分リマセヌ、國民ハ農林省ニ感謝シテ居ルノデアリマス、商工當局モ折ガアツタラ農林當局ニ御禮ヲ申シテ下サルヤウニ御願シマス、以上ヲ以テ私ノ質問ヲ終ルコトニ致シマス、長々各位ノ御清聴ヲ煩ハシマシタ、感謝致シマス(拍手)

○政府委員(加藤鐵五郎君) 只今高橋君ヨリ各方面ニ互リマシテ色々専門的御質問ガゴザイマシタ、各項目ヲ御舉ゲニナツテ御質問デアリマシタガ故ニ、私ハ順次之ヲ御答致シタイト存スルノデアリマス

今回ノ試掘權制度ノ改正ハ睡眠鑛區ノ開發ヲ其ノ直接ノ目的ト致シタモノデハナク、單ニ試掘權制度ヲ其ノ本來ノ趣旨ニ合致セシメントシタモノデアアルノデアリマス、唯今回ノ改正ニ依リマシテ、其ノ期間ガ四年トナリマスルノデ、此ノ期間内ニ是非トモ探掘シナケレバナラストナリマスカラ、眞ニ探掘ヲ爲ス者ノミガ試掘權ヲ持ツコトニナリ、單ニ權利トシテ持チタイト云フコトノ弊ハ、多分ニ此ノ法案ニ依ツテ矯正サレ得ルコトナリマシテ、其ノ結果所謂睡眠鑛區ナルモノノ發生モ自ラ防止セラレ、増産實現ノ一方法トナルモノト考ヘルノデアリマス、而シテ今日ノ事態ニ於キマシテハ、資材及ビ勞力等ノ供給ガ極メテ困難デアリマスルコトハ御説ノ通りデアリマスガ、鑛業ハ産業ノ樞軸ヲ成スモノデアリマスカラ、資材勞働力資金等ニ付キマシテハ、政府ニ於キマシテハ、極力其ノ供給ノ増加ヲ圖リマシテ、試掘ノ遂行ニ遺憾ナカラシメントスル考デアリマス、右申述ベマシタ通り、今回ノ改正ノ結果ハ鑛山ノ開發スル意思モナク、又開發モ行ハズシテ徒ニ鑛區ヲ占有スル者ニ取リマシテハ、不都合デアアルカモ知レマセヌガ、眞ニ探掘ヲ爲ス者ニ取リマシテハ毫モ差支ナイコトデアリマシテ、探掘獎勵ノ上ニ於テ大ナル效果ガアルト考ヘテ居ルノデアリマス、隨テ鑛山探掘

ノ熱意が失ハシメラレト云フヤウナコトハ、全然ナイデアラウト考フルノデアリマス

次ニ豫備鑛區トノ關係デゴザイマスルガ、所謂豫備鑛區ト云ハレルモノノ中デモ、唯廣大ナル地域ヲ持ツテ居リマシテ、他人ノ進出ヲ排斥シナガラ、自分ハ全ク開發スル意思ヲ有シナイト云フモノノ如キハ別デアリマスガ、現在ノ作業ヲ續ケテ行ク上ニ於テ、相當程度マデ鑛區ヲ持ツテ置クコトガ必要デアルコトハ、吾々モ十分之ヲ認メルノデアリマス、今回ノ試掘權制度ノ改正ハ、單ニ試掘權ヲ其ノ本來ノ趣旨ニ適合セシメントスルニ過ギナイノデアリマシテ、此ノヤウナ鑛業常識上當然認メラレテ然ルベキ範圍ノ豫備鑛區ヲ否認セントスルモノデハナイノデアリマス、唯從前ハ單ニ一度試掘權ガ設定セラレト、何等試掘ヲ爲サズシテ漫然ト豫備鑛區トシテ取扱ハレテ居ツタノデアリマスルガ、今回ノ改正ニ依リマスレバ、兎モ角モ一應試掘ヲシ、鑛床ノ狀態ヲ確メタル後、採掘權ヲ設定シテ之ヲ豫備鑛區トスルコトニ相成ルノデアリマスルガ、試掘權ガ採掘權設定ノ爲ノ準備ノ權利ニ過ギザル點ヨリシテ、是ハ寧ろ當然ノコトデアリマス

次ニ、現行鑛業法第四十條ニ依リマスレバ、鑛業權者ガ正當ノ理由ナクシテ登錄ノ日カラ一箇年以内ニ事業ニ著手シナイ場合ハ、主務大臣ハ鑛業權ヲ取消スコトヲ得ト云フコトニナツテ居リマス、本規定ヲ活用致シマスレバ、睡眠鑛區ノ發生ヲ防ギ得ルノデ

ハナイカト云フコトハ、一應御尤モナ御説デアリマスガ、既ニ權利ヲ設定シテシマツタ後ニ、鑛業權者ノ各自ニ對シ個々ノ行政處分ニ依ル鑛業權ヲ取消ヲ以テ、事業ノ著手ヲ強制スルコトハ事實上甚ダ困難デアリマ

スルシ、又決シテ有效デハナイト思フノデアリマス、ドウシテモ個々ノ行政處分ヲヤラズニ、試掘權ノ制度自體ガ、自然ニ採掘ヲ誘發スル如キ制度ヲ樹立スルコトガ、最モ公平デアリ又適切デアルト思フノデアリマス、其ノ他現行法第三十三條ノ二ノ規定ヲ修正シテ、眞ニ試掘期間ノ延長ヲ必要トスル者ノミニ優先權ヲ與ヘルコトトスルノモノツノ方法デアリマスルガ、是モ其ノ認定竝ニ處分ノ標準決定ニ色々困難ガ伴フノデアリマシテ、公平ヲ期スル爲ニモ試掘權ノ期限ハ之ヲ延長シテ四年ニ致シマスルト共ニ、其ノ延長ハ絕對ニ之ヲ認メナイトスルコトガ適當デアルト思フノデアリマス

次ニ既設鑛業權ト他ノ事業ノ工作物トノ關係ニ付テ御述ニナツタノデアリマスガ、既ニ鑛區トナツタ土地ニ、他ノ公共事業、例ヘバ鐵道、水力電氣等ノ隧道水路ヲ作ラウトスル場合ニハ、是等ノ事業ト鑛業トノ間ニ相互ニ妨害ヲ生ズルコトガ往々アルノデゴザイマス、此ノ場合ニハ鑛業權者ガ土地ヲ掘ルコトニ付キマシテ、常ニ優先的ニ權利ヲ有スルモノデアルトモ斷ジ難ク、又水力電氣や鐵道ガ公益事業デアルトシテ、鑛業ニ優越スルモノデアルト云フコトモ、斷定出來ナイノデゴザイマス、鑛業モ、水

力電氣モ、鐵道モ、何レモ國家ノ重要産業デアリマスルカラ、左様ナ場合ニハ其ノ個々ノ具體的ナ場合ニ當リマシテ、其ノ作業ノ調整ヲ圖ルヨリ外ナイト思フノデアリマス、隨テ此ノ點ニ付キマシテハ、ソレレノ監督官廳ニ於キマシテ緊密ナル連絡ヲ以テ、斯ル問題ノ發生ヲ防止竝ニ解決ニ努メタイト思ツテ居ルノデアリマス

ソレカラ日本產金振興株式會社及ビ帝國鑛業開發株式會社ヲシテ、モツト積極的ニ事業ヲ行ハシメテハドウカト云フ御質問デアリマシタガ、如何ニモ御尤モナル御議論ト存ズルノデアリマス、現在ニ於キマシテハ兩社トモニ事業開始以來日尙ホ淺ク、其ノ活動モ決シテ十分デアルトハ申サレナイノデアリマス、此ノ點ニ付キマシテハ御趣旨ニ副ヒマシテ十分考慮致シタイト存ズルノデアリマス、又日本產金振興株式會社ト帝國鑛業開發株式會社ト問題ニ付デアリマスガ、目下ノ所合併ハ考慮シテ居ラナイノデアリマス、兩社トモ其ノ設立ノ使命ハ重大デアリマシテ、隨テ各自ノ事業ニ全力ヲ傾倒セシムルコトガ宜シイト存ジマス、合併ニ依ツテ其ノ事業ヲ徒ニ多岐ナラシムルコトハ、却テ其ノ能率ヲ低下セシムルコトデナカラウカト存ズルノデアリマス、然レドモ兩社共ニ將來事業ノ内容ヲ接近ニ依リマシテ、左様ナ合併ヲシナケレバナラヌト云フヤウナ場合ガ生ジタル時ハ、篤ト考慮研究致シテ見タイト思フノデゴザイマス、大要右御答辯ヲ致シタ次第デゴザイマス(拍手)

〔政府委員木村正義君登壇〕

○政府委員(木村正義君) 日本產金振興株式會社ニ對スル大藏省ノ監督權ニ付テ御尋ガアリマシタガ、御答ヲ致シマス、金ノ増產集中ガ今日ノ時局カラ考ヘマシテ、極メテ重要ナコトハ御承知ノ通りデアリマス、隨テ昭和十二年ノ八月ニ金資金特別會計法ヲ設置シマシテ、其ノ特別會計ニ於テ金ノ増產集中等ニ對スル金融方面ノ事業ヲ、國策トシテ行フコトト相成ツタ次第デアリマス、同法ノ第四條ニ依リマスレバ、日本產金振興株式會社ノ其ノ資本金ノ半額ハ、此ノ金資金特別會計ニ於テ融通ヲスル、其ノ株ヲ持ツコトガ出來ル、斯ウ云フ關係ニ相成ツテ居ルコトハ高橋君モ御承知ノ通りト思ヒマス、其ノ外日本產金振興株式會社ニ對シマシテハ、巨額ノ融資ヲ同特別會計カラ致シテ居ルヤウナ次第デアリマスルカラ、主管省タル其ノ特別會計ヲ持ツテ居ル所ノ大藏省ガ、此ノ日本產金振興株式會社ニ對シテ、資金ノ關係ニ於キマシテ、監督權ヲ持ツコトハ當然ノコトデアリマス、高橋君ハ金ノ生産ノ技術方面ニ大藏省ガ何カ關與シテ居ルヤウニ御述ニナリマシタケレドモ、其ノ產金事業自體ニ對シマシテハ、大藏省ハ絕對ニ干涉ヲ致シテ居リマセス、其ノコトダケヲ申上ゲテ置キマス(拍手)

○副議長(田子一民君) 松尾孝之君

〔松尾孝之君登壇〕

○松尾孝之君 私モ只今上程サレテ居リマス鑛業法中改正法律案ニ關シマシテ、二三

ノ點ヲ御尋シタイト思ヒマス、今回政府ガ
本法ノ改正ヲ企テラレマシタコトハ、要ス
ルニ生産力擴充ヲ必要トスル意味ニ於テ、
私共ハ其ノ精神ニ於テハ賛成スル者デゴザ
イマス、併シナガラ只今高橋君ガ申サレマ
シタ試掘權ノ變更、此ノ點ニ付キマシテハ、
私モ高橋君同様、洵ニ鑛業ノ進展ノ上カラ
遺憾ニ思フ者デゴザイマス、政府ハ現在此
ノ鑛業者ガドノヤウナ情勢デアアルカト云フ
コトヲ、深く認識シテ居ラレナイ點ガアル
ヤウニ考ヘマス、仍テ私ハ一應此ノ點ヲ申
シテ見タイト思ヒマス、高橋君ノ申サレマ
シタ如ク、資金ノ點ニ於テ、技術ニ、或ハ
勞力ニ、物資ニ、今頗ル不自由ヲ致シテ居
リマス、現在稼行中ノ鑛山ニ於テハ、石炭
金、銀、銅、亞鉛、鐵、クロム、ニッ
ケル、其他重要鑛山物ノ増産ニ對シテハ、
資材及ビ勞力ノ不足ノ爲ニ、此ノ増産ガ極
メテ至難ノ狀態ニナツテ居リマス、又一方
低物價政策ノ方針ニ依ツテ鑛產物價格ハ限
定セラレテ、生産費ノ「コスト」ハ物資不足
ノ爲ニ益々昂騰シテ、鑛業家ノ齊シク苦慮
スル所デアリマス、平時ニ於キマシテハ多
量生産スルコトハ易ク出來ルケレドモ、時
局下ニ於テ増産スルコトハ「コスト」ガ非常
ニ高クナル、其ノ中デモ寒帯地例ハ北海道
道樺太ト云フヤウナ寒帯地方方面ニ於キ
マシテハ、坑内及ビ水中作業用ニ必要ナ
ル所ノ地下足袋トカ、其他軍手トカ云フヤ
ウナモノガ、殆ド其ノ必要ノ十分ノ一位シ
カ配給ガアリマセス、或ハ運搬用ノ「ガソ

リン」其ノ他油「カーバイト」ソレカラ建物
及ビ作業ニ要スル工材、特ニ釘デアルトカ、
銅線、亞鉛板線ノヤウナモノガ極メテ不足
デアアル、而モ一方ニハ杭木ノ不足ハ極メテ
夥シイモノガアリマス、斯ウ云フヤウナ狀
態デアリマスカラ、此ノ試掘權ノ二年ヲ假
ニ四年ニ延長致シマシテモ、到底是ガ採掘
ヲ可能ナラシムルコトハ不可能デアリマス、
從來ハ試掘權ガ切レタトキニハ、十日間ノ猶
豫期間ヲ以テ、前ノ權利者ニ優先權ヲ與ヘ
テ居ツタノガ、今回ハ全然之ヲ認メナイ、
サウナルコトハ聽テ此ノ鑛區ノ賣買「プロ
カー」ヲ其ノ間ニ介在セシメテ、非常ニ混
亂スル結果ニナラウト思ヒマス、斯ウ云フ
ヤウナ點カラ考ヘマシテモ、此ノ試掘權區
ト云フモノヲ、或ル程度マデハ前ノ所有權
者ニ優先セシムルコトガ最モ必要デアリ、
而モ此ノ保護鑛區若クハ豫備鑛區等ニ付キ
マシテ、全然之ヲ認メナイト云フコトニナ
レバ、大資本ヲ以テ此ノ難事業ニ從事スル
者ガ極メテ少クナル、所謂投資ヲスル者ガ
少クナルコトハ、モウ見エ透イタ事デアラ
ウト思ヒマス、斯ウ云フ點カラ考ヘテモ、
此ノ生産力擴充上却テ逆效果ヲ來サシムル
虞ガ十分アルノデアリマスガ、此ノ點ニ付
テ政府ハ更ニ考ヘ直シテ、少クトモ假ニ一
日デモ二日デモ猶豫期間ヲ與ヘル必要ガア
ルト思ヒマスガ、此ノ點ニ付テモウ一度政
府ノ御答辯ヲ願ヒタイト思ヒマス

其ノ次ニハ鑛業法第七十四條ノ第一項ノ
改正デアリマス、是ハ鑛業權ガ消滅後ニ危
險ノ虞ガアリ、又ハ公益ヲ害スル虞ガアル
場合ニハ、舊鑛業權者ニ危險ノ豫防義務ヲ
負ハシムル規定デアリマス、之ニ付テ政府
ハ現在ノ一年ヲ五年ニ改正セントスルノデ
アリマス、此ノ五年間ニ他ノ者ガ鑛業權ヲ
取得シタ場合ニモ、尙ホ前ノ鑛業權者ニ此
ノ義務ヲ負ハサシムルト云フコトハ、少シ
過酷デハナイカト考ヘルガ、此ノ點ニ付テ
ノ政府ノ所見如何

其ノ次ニハ第百四條第一項ノ改正デアリ
マスガ、是ハ鑛業權者ガ其ノ從業者ガ犯シ
タコトヲ、自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ
本法ノ罰則ヲ免カルルコトガ出來ナイト云
フ規定デアリマスガ、此ノ改正法案ヲ見マ
スルト、鑛業權者ヲ「法人又ハ人」ト改正シテ
居リマス、現行法ニ依リマスと或ル變災事故ガ
起ツタ場合ニハ、其ノ場所ノ長デアアル坑長若
クハ鑛業所長、監督者ガ其ノ責任ヲ負ウテ居
ルノデアリマスガ、改正ノ結果ハ是ハ法人デ
アレバ社長ニマデ及ブノデアリマス、而モ
現行法ニ於キマシテハ體刑ハ科セラレナク
ナツテ居ルノニモ拘ラズ、改正法ニ依リマ
スルト禁錮ヲ科スコトガ出來ル、唯懲役ヲ科
スルコトガ出來ナクナツテ居ルニ過ギナイ
ノデアアル、斯ウ云フコトニナリマス、ア
ノ謂ハバ危險ナコトヲ、相當用意ハシテ居ル
ケレドモ、用意ノ中ニモ萬一變災事故等ヲ
起シタ場合ニ、是ガ其ノ法人ノ代表者ニマ
デ及ブコトニナルナラバ、一面ニ於テハ斯
ウ云フヤウナ事業ニ投資ヲシ、或ハ進ンデ
新ナル所ノ山ヲ開發スル意思ヲ消耗サセル
結果トナツテ、延イテハ此ノ改正法ノ目的
デアアル所ノ生産擴充ニ反對ノ效果ヲ來サシ
ムル憂ガアルト思フガ、此ノ點ハ從來通り
其ノ現場ノ監督者若クハ長ニノミ責任ヲ負
ハズナリ、或ハ又罰金刑ノミヲ科シ得ルト
云フ風ニ爲シ置クコトガ適當デアルト思フ
ガ、之ニ付テ政府ノ考ハ如何カ御聽シタイ
ト思ヒマス

其ノ次ニハ本法ノ第八十八條ヲ削除サレ
ル結果、此ノ八十八條ハ鑛業稅ニ對シテ府
縣市町村ガ附加稅ヲ賦課サレル規定デアリ
マス、是ハ今回地方稅ノ改正ノ結果、當然
斯ウナルベキモノデアアルコトハ承知シテ居
リマスガ、併シ今回ノ地方稅改正ニ依リマ
スルト、總テガ營業稅ノ形ニナツテ、所謂純
益稅デアリマス、現行法ニ依リマスと鑛產
物ノ量ト價額ニ比例シテ附加稅ガ賦課サレ
テ居ルノデアリマスガ、是ガ純益稅ニナツ
タ場合ニハ、道府縣市町村ノ收入ト云フモ
ノハ著シク減額サレル虞ガアルコトハ、想
像ガ付クノデアリマス、政府當局ハ御承知
カト思ヒマスガ、抑、此ノ現行法第八十八條ノ
鑛業稅附加稅ノ中、市町村ノ附加稅千分ノ
千二百ト云フモノハ、特ニ昭和六年ニ改正
サレテ、從來ノ國稅鑛業稅ヲ市町村ニ委讓
サレタノデアリマスガ、其ノ趣旨ト云フモ
ノハ、是ハ鑛業所在地ニハ勞働者其ノ他擔
稅力ノ極メテ乏シイ者ガ著シク多イ、ソレ
ガ爲ニ教育費或ハ衛生費其ノ他各般ノ經費
ガ嵩ムノデアリマス、然ルニ一方擔稅力ガ
少イ爲ニ其ノ收支ガ相償ハナイト云フ所カ

ラ、其ノ當時特ニ此ノ改正ヲサレタムデア
リマス、此ノ趣旨カラ考ヘマス、今回ノ
八十八條ノ削除ニ依ツテ地方分與稅ニ移ル
結果、前ニ申シマシタヤウニ市町村ノ收入
ニ著シキ減額ノアルト云フコトハ、當該市
町村ノ洵ニ憂フル所デアリマス、此ノ點ニ
付テハ特ニ内務省當局ノ方カラ、茲ニハツ
キリシタ御答辯ヲ戴キタイト思ヒマス

最後ニ私ハ文部省、厚生省當局ニ一二御
尋シタイト思ヒマス、政府ハ生産力擴充ノ
目的ヲ以チマシテ、工業學校ノ増設ヲ昨年
カラサレテ居リマス、本年度ノ豫算ニモ相
當計上サレテ居リマス、是ハ要スルニ多ク
工業技術員ヲ養成セシメントスルモノデア
リマスガ、之ニ付テ徒ニ粗製濫造ノ技術者
ヲ多數養成スルト云フコトハ、將來ノ我國
産業ノ上ニ於テ甚ダ面白カラザル結果ヲ生
ズルノデハナイカト云フコトヲ私ハ憂ヘマ
ス故ニ、技術ノ優秀ナル者ヲ、一面ニハ相
當德育方面ニハ十分ノ用意ヲ以テ子弟ノ教
養ヲシテ居ラレルト思フケレドモ、一應此
ノ點ニ付テ文部當局ノ御意見ヲ伺ツテ置キ
マス、ソレカラモウ一ツハ、最近理工科方
面ノ入學志望者ガ激減シタト謂ハレテ居リ
マス、政府ハ一方ニ此ヲ生産力擴充ニ必要
ナル所ノ技術者ノ養成ニ力ヲ盡サレテ居リ
マスケレドモ、一方ニハ志願者ガ激減シテ
居ルト云フコトヲ聞クト、私共洵ニ寒心ニ
堪ヘナイノデアリマス、其ノ理由ニ付テハ
色々アルカト思ヒマスガ、私ハ先ヅ此處デ
厚生大臣ニ御尋シタイノハ、政府ガ國家總

動員法ノ第六條ノ規定ニ基イテ、學校卒業
者制限令ヲ勅令ヲ以テ定メラレマシタ、其ノ
結果デナイカト私共ハ考ヘル、ト云フノハ此
ノ制限令ニ基キマシテ、折角學校ヲ卒業シテ
自分ノ希望スル會社ナリ工場ニ就職シタク
モ、是ガ爲ニ其ノ就職ガ自由ニナラナイト云
フコトガ一ツデハナイカト思ヒマス、モウ一
ツハ此ノ制限令ノ結果、専門的ノ技術ヲ修
メタ者ガ、其ノ専門的ノ職場ニ就クコトガ
出來ナイ傾向ガアルヤウデアリマス、例ヘ
バ應用化學ヲ卒業シタ者ガ——應用化學ト
申シマシテモ現今デハ非常ニ數ガ多イサウ
デアリマスガ、ソレガトンデモナイ所ニ就
職セザルヲ得ナイ、全然専門外ノ所ニ就職
スルト云フヤウナ事例ヲ私共ハ幾多聞イデ
居リマス、斯ウ云フヤウナコトガ此ノ理工
科方面ノ志願者ヲ激減セシメタ原因デハナ
イカト思フ時ニ、政府ハ此ノ學校卒業者使
用制限令ヲ、モウ少シ餘裕ヲ取り得ルヤウ
ニ其ノ數ノ制限ヲシテモ宜イカト思ヒマス
ガ、其ノ卒業者ヲ適材適所ニ使フ方法ヲ考
ヘテ、此ノ制限令ノ改正ヲ必要ト思フガ、此
ノ點ニ付テ厚生大臣ノ御意見ヲ承リマス

最後ニモウ一ツ承リタイノハ、今回ノ議
會ヲ通シマシテ生産力ノ擴充ガ叫バレ、殊
ニ石炭ノ増産ニ付テハ色々場合ニ於テ同僚
諸君カラモ述べラレマシタ、又政府モ之ヲ
認メラレマス、サウシテ此ノ増産ニ關シマ
シテ勞働者ノ能率ガ度々問題ニサレテ參ッ
タノデアリマス、其ノ中デ現在ノ勞働者ハ
稼働賃銀ガ頗ル高イガ爲ニ、却テ反比例的

ニ能率ガ低下シタト云フコトヲ屢々私共ハ
聞イタノデアリマス、私ハ此ノ點ニ付テ、
我國ノ勞働者ガ如何ニモ時局ヲ認識シナイ
デ、自分ノ立場バカリ考ヘテ居ルカノヤウ
ニ聞エテ、洵ニ遺憾ニ堪ヘナイト考ヘテ居
ツタ一人デアリマス、諸君、現在ノ勞働者
ハ、此ノ前此ノ議場デドナタカガ申サレ
マタ如ク、今日ノ重大時局ヲ深く認識シ
テ、孜孜營々トシテ銃後産業戰士トシテ働
イテ居リマス、中ニハ、多數デアリマスカ
ラ、或ハ前申シマシタヤウナ者ガ、僅カハ
ナキニシモアラズトハ、私共モ考ヘマスケ
レドモ、大部分ノ勞働者ハ全ク此ノ非常時
局ノ銃後産業戰士トシテ働イテ居ルニモ拘
ラズ、賃金高ノ爲ニ能率ガ低下シタト云ツ
テ、ソレデ押ヘ付ケラレテシマフコトハ、

洵ニ我國勞働者ノ爲ニ私ハ可哀相デアルト
思ヒマス、諸君、今日ノ勞働者一人當リノ
能率低下ハ、決シテソレニ因ルモノデハナ
クシテ、前ニ私ガ申シマシタ資材ノ不足、
或ハ鑛業方面ニ於キマシテハ機械力ノ不足
等ガ、重大ナ原因デアリマス、今日ノ戰爭
ガ武力戰デアリ、武力戰ハ科學戰デアリ、機
械化戰デアルト言ハレテ居ルガ如ク、産業
ニ於キマシテモ今日ハ非常ニ機械化サレテ
居リマス、其ノ機械、資材等ガ今日ノ政府
ノ配給機構、或ハ物價政策等ノ爲ニ満足ニ
行ツテ居ラナイト云フコトガ、私ハ最大ノ
原因デナケレバナラナイト思フノニ拘ラ
ズ、單ニ勞働者ガ時局ヲ認識セザル爲ニ低
下シタト言ハレルコトハ、洵ニ残念ニ思フ

モノデアリマスガ、此ノ點ニ付テ厚生大臣
ノ所見ハ如何カ、此ノ場合承リ置キタイト
思ヒマス、以上ヲ以チマシテ私ノ質問ヲ終
リマス(拍手)

(政府委員加藤鐵五郎君登壇)

○政府委員(加藤鐵五郎君) 松尾君ノ御質
疑ニ御答致シマス、鑛山用ノ資材及生物資
ガ缺乏致シテ居ルト云フ御話デアリマシタ
ガ、是ハ鑛業ノ重要性ニ鑑ミマシテ、商工
省トシテモ御指摘ノ地下足袋トカ作業服ト
カノ問題ニ付キマシテハ、來年度ヨリハ今ヨ
リ相當多ク配給致シマシテ、御期待ニ副フ
ヤウニ只今努力致シテ居ル次第デゴザイマ
ス、次ニ期間ヲ延長スベシト云フコトニ關
シテノ御質問デアリマシタガ、是ハ試掘權
ノ本質ニ鑑ミマシテ、只今ノ所デハ延長シ
ナイ方針デアリマス、又其ノ方ガ宜カラウ
ト存ズルノデアリマス、ソレカラ罰則改正ノ
件ニ付キマシテハ、色々御意見モゴザイマ
シタガ、諸般ノ實情及ビ他ノ法令トノ關係
モアリマシテ、十分ノ之ヲ考慮致シテ斯様ニ
致シタノデアリマス、尙ホ色々細カイ條文
ニ付テノ御質問ガゴザイマシタガ、是ハ委
員會等ニ於キマシテ詳細又他ノ政府委員ヨ
リ御答辯致スコトニ致シマス

(國務大臣伯爵兒玉秀雄君登壇)

○國務大臣(伯爵兒玉秀雄君) 鑛業法ノ改
正ニ依リマシテ鑛業稅ガ削除セラレタノデ
アリマス、其ノ結果ト致シマシテ、地方ニ
於キマス附加稅ノ收入ヲ見ルコトガ出來ナ
クナツタノハ御説ノ通りデアリマス、併シ

ナガラ此ノ鑛業税ニ代リマスノニ、營業稅ヲ以テ是ガ收入ヲ見ルコトニ相成ツタノデアリマス、此ノ營業稅法ニ依リマシテ、今回ノ所謂地方稅法ノ結果ト致シマシテ、附加稅トシテ市町村ハ其ノ收入ヲ得ルコトニ相成ルノデアリマス、其ノ結果ハ只今御話ニナリマシタノト反對デアリマスノデ、減收ヨリハ寧ロ地方團體ハ增收ノ結果ニ相成ルノデアリマス、但シ營業稅ト相成リマス、收益ノナイ小鑛業者ノアリマス場合ニ於キマシテハ、自然ニソコニ地方團體ノ收入ノ缺陷ヲ生ズルノデアリマスガ、是ガ救済ノ方法ト致シマシテハ、地方稅中ノ分與稅、配付稅ニ依ツテ之ヲ補フコトガ出來ルノデアリマス、其ノ結果ト致シマシテ、是等ノ町村等ニ於キマシテモ、財政上並ニ經濟上ニ支障ヲ生ズルコトハナイト考ヘテ居ルノデアリマス

〔國務大臣吉田茂君登壇〕

○國務大臣(吉田茂君) 最近ニ於テ理工科ノ學校ニ入學志願ヲスル志望者ガ、激減ヲシタト云フコトデアルガ、ソレハ學校卒業者ノ使用制限令ノ結果デハナイカト云フ御尋デゴザイマス、本年ニ於キマシテ理工科ノ學校ニ入學志願ヲスル人ガ數ニ於テ減少シタト云フ噂ハ、私モ聞及ンダコトハゴザイマスルガ、マダ的確ニ事實ヲ調査致シテ居リマセヌ、併シ若シ假ニモ左様ナコトガアリト致シマスレバ、今日我が產業界ニ於キマシテ、最モ技術者ヲ要求致シマスルコトノ強イ時代ニ、洵ニソレハ憂慮スベキコト

デアルト考ヘルノデアリマス、其ノ點篤ト取調ベマシタ上デ、其ノ原因等ニ付キマシテモ十分探究ヲ致シ、若シ總動員關係ノ法令ノ制限ノ爲ニ、左様ナ現象ヲ呈シテ居ルト云フヤウナコトデアリマスルナレバ、法令ノ運用ノ上ニ付キマシテモ十分考慮ヲ致シ、尙ホ改ムベキ點ガアリマスレバ、ソレヲ改メルト云フコトニモ、決シテ吝カデアツテハナルマイト考ヘルノデアリマスルガ、元來學校卒業者ノ雇入制限令ハ、學校ヲ卒業致シマシタ適材ヲ其ノ適當ナ場面ニ、最モ能率ノ舉ルヤウニ配當致シマスル爲ニ規定セラレテ居ルノデアリマス、丁度仰シヤツタヤウナ缺陷ガアツテハナラナイ、今日ノ我が產業界ハ實際ノ卒業人員以上ニ、ソレニ幾層倍カシテ產業界ニ人間ヲ要スルノデアリマスノデ、若シ無計畫ニ各自ノ自儘ニ競爭的ニ卒業生ヲ收容スルト云フコトニナリマスルト、適材適所、我國ノ產業ノ能率ヲ十分ニ舉ゲルト云フコトノ上ニ於キマシテ、遺憾ノ點ガアツテハナラナイカラ、ソレニ規制ヲ與ヘヨウト云フコトガ、立法ノ趣意デゴザイマスルノデ、其ノ立法ノ趣意ヲ達成シ難イト云フヤウナ運用ノ缺陷デモアリマスルコトナレバ、ソレハ十分注意セネバナラスコトト思ヒマスカラ、御質問ノ趣意ニ應ジマシテ、十分取調モシ、運用ノ上ニ於キマシテモ注意ヲ致シテ参リタイト存ジマス

次ニ鑛山ニ於ケル勞働者ノ能率ノ低下ハ賃銀高ノ爲デアル、高賃銀ヲ得テ遊ンデ居

ル爲ニ能率ガ低下シテ居ルト云フヤウナ世評ガアルノハ洵ニ殘念デアルガ、當局ハドウ考ヘルカト云フ御尋デゴザイマス、今日鑛山勞働、殊ニ現下最モ大切トシテ居ラレマスル炭礦方面ニ於キマシテ、鑛夫一人當リノ出炭量ト云フモノガ減少シ、炭礦夫ノ能率低下ト云フコトガ見ラレマスルコトハ事實デゴザイマスルガ、其ノ原因ハ主トシテ御指摘ニナリマシタ資材ノ不足、又他方ニ於キマシテ勞務ニ習熟ヲ致シマシタ熟練者ガ第一線ニ召サレマシタコト、或ハ炭礦勞働者ノ移動ノ激シイガ爲ニ、不熟練ナ若イ人々ガ今日坑内デ働カネバナラスヤウナ實情ニナツテ居リマス、資材ノ不足ト此ノ不熟練者ノ増シテ居ルト云フコトガ、

最モ多ク能率低下ノ原因ヲ成シテ居ルカト思フノデアリマス、資材ノ點ニ付キマシテハ關係方面ト十分ナ連絡ヲ取リマシテ、最モ必要ナ炭礦事業ト云フモノノ仕事ノ成績ノ舉リマスルヤウニ、存分力ヲ致シタイト思ヒマス、關係當局ニ於キマシテモ、ソレゾレニ出來ル限リノ力ヲ盡シテ居ルコトヲ、私共トシテモ感謝シテ居ルヤウナ次第デゴザイマス、勞力ノ供給ト云フコトニ付キマシテモ、事變下デアリマスルカラ、或ル程度不熟練者ノ入リマスルコトハ已ムヲ得ナイノデアリマスルガ、其ノ不熟練者ノ入リマスルコトニ依ツテノ能率ノ低下ト云フコトヲ防止スル上ニ於キマシテハ、萬全ノ注意ト工夫トヲ積ミタイト思ツテ居ルノデアリマス、尤モ假令噂ニモ致セ、今日高賃銀

ノ爲ニ銃後ノ最モ大切ナル產業デアアル炭坑方面ニ於ケル勞務者ノ能率ガ低下シタト云フヤウナ噂ノアリマスルコトハ、洵ニ遺憾千萬ナコトデアリマスノデ、萬々一ニモ左様ナコトノアリマセヌヤウニ、私共勞務管理ノ上ニ於キマシテ、十分注意ヲ致ス必要ガアルト考ヘテ居ルノデアリマス、其ノ點ニ於キマシテモ遺憾ナキヲ期シタイト存ジテ居リマス

〔政府委員子爵舟橋清賢君登壇〕

○政府委員(子爵舟橋清賢君) 只今御質問中ニ、工業學校増設ニ付テノ德育方面ノ施設ハドウデアアルカト云フ點ニ付テノ御質問ガゴザイマシタ、ソレニ付テ簡單ニ御答ヲ申上ゲマス

學校教育ニ於キマシテノ精神教育、是ハ最モ大切ナ點デゴザイマスノデ、當局ト致シマシテハ特ニ此ノ點ニ留意シ、常ニ施設方面ニ於キマシテ、色々サウ云フ方面ノ教科項目ヲ入レルコトニ留意致シテ居リマス、殊ニ工業學校等ノ技術ヲ養成教授致シマスル學校ニ於キマシテハ、兎角德育方面ガ疎カニナル虞ガアリマスノデ、今般多數ノ工業學校ノ増設ガ致サレマシタコトニ付キマシテ、特ニ修身トカ倫理トカ、サウ云フ學生ノ人格陶冶、鍊成ヲ要スル教授課程ニ付キマシテ、其ノ方ニ時間ヲ割キマシテ、德育ノ疎カニナラナイヤウニ當局デハ留意致シテ居リマス

第二ノ御質問ハ、理工科方面ノ入學志望者ノ激減ノ理由ニ付テ、御尋ニナツタヤウ

デアリマスガ、是ハ新聞等ニ現ハレマシタ所ヲ見マスルト、色々ノ理由ニ依ツテ昨年度ヨリモ減少シテ居ルヤウニ承知シテ居リマスルガ、ソレニ付キマシテノ的確ナル原因ニ付テ目下調査中デアリマスノデ、茲ニ具體的ニ斯ウ云フ理由ニ因ツテ理工科方面ノ學生ガ減ツタノデアルト云フコトヲ、事例ヲ舉ゲテ御説明ヲ申上ゲル時期ガマダ參ツテ居リマセヌハ、甚ダ遺憾デアリマスルガ、斯ウ云フ非常時局ニ際會致シマシテ、若シ斯ノ如キ現象ガ事實トシテ現ハレテ參リマスルナラバ、國家ノ産業方面ニ於ケル今後ノ人的資源ノ供給ト云フコトニ付キマシテモ、非常ニ憂慮スベキコトガアルト考ヘマスノデ、十分ニ其ノ原因ヲ探究調査致シマシテ、將來善處致シタイト存ジマス

○副議長(田子一民君) 川俣清音君

〔川俣清音君登壇〕

○川俣清音君 只今上程ニナツテ居リマスニ法案ニ付キマシテ、總論的ニ五六點ヲ舉ゲマシテ商工大臣竝ニ厚生大臣ニ御尋ヲ致シタイト思フノデゴザイマス

第一點ハ、此ノ法案ニ含マレテ居ル要點ハ試掘鑛區ヲ四年トシ、所謂睡眠鑛區ノ開發ノ促進ヲ圖ツテ、以テ重要鑛物ノ増産ヲ企圖サレテ居ルノデアリマスガ、無キヨリ優ルト云フヤウナ斯ル姑息ナ手段ニ依リマシテ、今次事變發生以來急ヲ要スルヤウニナリマシタ金ヲ初メ銅「アルミ」等ノ鑛物ノ増産ガ期シ得ラレルヤ否ヤ、私共ハ大ナル

疑問ヲ持ツテ居ルノデゴザイマス、私ノ説明ヲ俟ツマデモナク銅「アルミ」等ハ今日ノ我國ノ現情ニ於キマシテハ、石炭以上ノ重要ヲ持ツテ來テ居ルノデアリマシテ、緊急且ツ重要ナ處置ヲ要スル資材トナリツツアルト私共ハ考ヘルノデアリマス、今日ノ國際情勢ハ石油、石炭ヲ初メ銅「アルミ」等ノ資材ノ爭奪戰デアルトモ考ヘラレルノデゴザイマスケレドモ、常ニ思ヒヲ石炭ニ寄せマシテ、其ノ他ノ金屬ニ對スル認識ノ足ラザルナキヤヲ吾々ハ憂ヘテ居ルノデアリマスケレドモ、此ノ點ニ付テ商工大臣ハ度ノ程度銅及ビ「アルミ」等ノ鑛物ニ對スル重要ヲ御認識ニナツテ居ルカト云フ點ヲ、御尋致シタイト思フノデゴザイマス、私ハ今茲ニ銅ノ必要量、或ハ戰爭目的遂行ノ爲ニ要スル「アルミ」ノ必要量等ヲ御尋ヲ致シタイトハ思ハナイノデアリマスケレドモ、此ノ必要ヲ十分認識シテ、其ノ對策ヲ立テラレナイデ、若シモ姑息ナル手段ニ墮シテ居ラレマスナラバ、私ハ甚ダ危險ナ狀態ヲ招致スルモノデアルコトヲ憂フルノデゴザイマス、第一日本ノ鑛業界ノ歴史ト國家ノ財政トノ關係ヲ十分研究サレマシテ、積極的方法ガ講ゼラレナケレバナラナイト私共ハ考ヘルノデゴザイマスガ、此ノ點ニ關スル御意見ヲ承リタイト思フノデアリマス、即チ會テハ銅鑛山ハ我國鑛業界ノ王者デアツタノデアリマス、隆々トシテ銅ノ生産ガ増大シマシテ、時ニハ輸出國デアツタノ

デアリマス、殊ニ平安朝以前カラ平安朝以後、織田、豐臣、或ハ徳川時代ニ至リマスマデ、相當ノ銅ガ支那ニ流通シテ居ル程、日本ノ鑛業界ニ於ケル銅ノ位置ハ重要ナモノデアリ、相當產額ヲ有シテ居ツタノデアリマス、斯ノ如ク日本ノ銅ガ相當ノ生産額ヲ持ツテ居ツタノデアリマスカラ、今日ノ富豪ト言ハレルヤウナ住友ヲ初メ、三井ニ致シマシテモ、古河ニ致シマシテモ、藤田ニ致シマシテモ、何レモ此ノ產銅界ニ君臨致シマシテ、其ノ資本ヲ蓄積致シタノデアリマスカラ、鑛業界ト言ヘバ銅產業界ノ隆盛ガ直グ思出サレ、現實ニソレヲ見セラレタノデアリマスケレドモ、今日ノ我國ノ產銅界ハ洵ニ悲慘ナ狀態ニ陥リツツアルノデハナカラウカト考ヘラレルノデゴザイマス、即チ古河ヲ初メ或ハ住友ニ致シマシテモ、他ノ石炭方面ニ於キマシテハ相當ナル利潤ヲ舉ゲテ居リマスルニモ拘ラズ、此ノ金屬ニ於キマシテハ餘リ其ノ利益ヲ見ナイヤウナ狀態ニマデ危險ニ陥ツテ居ルコト云フ狀態ヲ、如何ニ認識シテ居ラレルカト云フ點ヲ特ニ御尋致サナケレバナラヌト思フノデアリマス

第二ハ本法ノ改正サレル要點ハ、試掘鑛區ヲ四年ニ限定スルト云フコトデアリマス、然ルニ朝鮮ハ御承知ノヤウニ試掘鑛區ハナイノデアリマシテ、是ハ單ナル先願ノ形ニ於キマシテ先願權ヲ持チマシテ、五年、六年、十年ノ長イ間、試掘鑛區トモナリ得ナイデ先願權ノ賣買ニ依ツテ是レ以上ノ弊害ヲ醸シテ居ルヤウニ見受ケラレルノデアリマスガ、本法ノ改正ト朝鮮鑛業法ノ改正ト如何ニ配合セニナル積リデアアルカト云フ點ヲ、御尋致シテ置キタイノデアリマス

第三ハ、増産ノ人的要件竝ニ物的要件ガ色々論ゼラレテ居リマスケレドモ、増産ノ人的要件デアリマスル勞働力ノ補給對策ニ付テ、御尋致シタイト思フノデアリマス、今日世間ニ於キマシテハ、勞働力ノ補給對策ト致シマシテ、第一ハ就業時間ノ延長、第二ハ保護鑛夫ノ入坑、保護鑛夫トハ婦女子或ハ年少者デアリマス、所謂保護サレル鑛夫ノ入坑、第三ハ募集網ノ強化擴充等ニ依ツテ勞働力ノ補給ヲ圖ツテ居ルヤウニ考ヘラレルノデアリマス、殊ニ業者ノ方面カラ此ノ三點ガ熱望サレ、厚生省モ亦此ノ三點ノミガ勞働力ノ補給ナリト考ヘラレテ居ルヤウデアリマスルケレドモ、他ニ私ハ目ヲモツト大キク開イデ考ヘナケレバ、此ノ補給策ハ成立タナイト考ヘテ居ルノデアリマスルケレドモ、其ノ點ヲ一々申上ゲマシテ御答辯ヲ得タイト思フノデアリマス、モウ一ツハ外地ノ勞働力ノ誘致ガ考慮サレテ居リマスケレドモ、是ハ別ニ此ノ際私ハ論ジマセヌ、今日ノ鑛夫對策ヲ考ヘ、勞働力ノ補給ヲ考ヘマスル時ニ於キマシテ、過去ノ日本ノ政治上ニ於ケル勞働對策、鑛夫對策ノ一番優レテ居ツタ時代ハイッデアアルカト云フコトヲ考ヘテ見タイノデアリマス、是ハ豐臣秀吉ガ天下ヲ平定致シマシテ、アレダケ當時ノ政治社會ニ君臨致シマシタ其ノ力

ト云フモノハ、何處ニアツカト言ヘバ、是ハ當時ノ財政ヲ背負ツテ立ツ所ノ金ヲ産ム所ノ鑛夫ニ對スル對策ガ出來テ居ツタカラデアルト、私共ハ考ヘルノデアリマス、即チ豐臣秀吉ハ當時關白札ヲ鑛夫ニ與ヘ、此ノ關白札ヲ持ツテ居ル者ニ對シマシテハ苗字帶刀ヲ許シテ居ル、今日ノ勞働者ニ對シテハ賃銀ヲ上ゲテハイカス、上ゲルナラバ贅澤ヲスルト云フヤウナ話ガ出マスケレドモ、今日ノ鑛夫ニ位階勳等ヲ與ヘタ例ハナイ、増産ハ獎勵スルシ、モツト多ク鑛夫ノ入坑ヲ勸メマスケレドモ、鑛夫ニ對スル位階勳等ガ考ヘラレタコトガナイ、併シナガラ豐臣時代ニ於キマシテハ、當時ノ位階勳等ト申スヤウナ苗字帶刀ヲ許サレテ居ル、而モ普通ノ侍ガ自由ニ通行出來ナカツタ所ノ關所マデモ、此ノ苗字帶刀ヲ許サレ、太政關白札ヲ持ツテ居ル鑛夫ハ關所御免デ何處ヘデモ通ツテ歩ケタノデアリマス、是ハ豐臣秀吉ガ一ツハ所謂鑛獎勵ノ爲ノ鑛夫ニ對スル政策デアリ、モウ一ツハ各藩ノ財政ノ基礎ヲ握リタイ爲ノ探偵ノ意味ニ於テ鑛夫ヲアチラコチラニ散ラシタト云フ二點カラ、關所御免ヲ許シ、苗字帶刀ヲ許シテ、以テ當時ノ財政政策ヲ講ジタノデアリマス、斯ル鑛夫ニ對スル態度ガアツテコソ、今日ノ鑛山ガ開發サレタノデアル、日本ニ鑛業法ガ出來マシテ以來、其ノ開發ノ程度ハ遅々トシテ居リマスケレドモ、寧ろ今ノ鑛山ノ開發サレタ最初ヲ考ヘマスナラバ、織田信長、豐臣秀吉、徳川

時代ニ於テ發見サレタ其ノ殘滓ヲ掘ツテ居ルニ過ギナイノデアリマス、政府ガイヤ獎勵金ダ、イヤ補助金ダト稱サレマスケレドモ、豐臣時代ニ於キマシテモ、徳川時代ニ於キマシテモ、補助金ヨリモ何ヨリモ一ツノ政策ヲ以テ、今日ノ鑛山ノ隆盛ヲ來シタ原因ヲ切り拓イテ居ルノデアリマス、御承知デモアリマセウガ、今日ノ鑛山ノ従業員一万人ニ付キマシテ、七千三百四十人ガ三日以上醫者ニカカル負傷ヲシテ居ルノデアリマス、十人ニ付七人半ト私共ハ理解シテ居ル、ソレニモ拘ラズ時間ヲ延長シテ、以テ稼働率ヲ擧ゲル、モツト就業率ヲ擧ゲルト云フヤウナ考ヘ方ガ何處カラ出テ來ルカ、私共不思議ニ思ハレルノデアリマス、斯ル時間ノ延長デアルトカ、或ハ保護鑛夫ノ入坑デアルトカ、募集網ノ強化、是等ノモノヲ以テ今日ノ鑛夫ヲ集メラレルト云フヤウナ考ヲ御持チニナルコトガ、抑、ソレガ間違デアル、坑内作業ハ甚ダ有害不衛生デアリマシテ、坑内ハ暗黒デアツテ、絶對ニ陽ノ目ガ入ラナイ、濕氣ガ多イ、且ツ深度ガ深ケレバ深い程高温熱デアリマシテ、新鮮ナ空氣ニ乏シイ、炭酸瓦斯其ノ他有害瓦斯ガ蓄積シテ居リマシテ、掘鑿ノ際ニ生ズル所ノ所謂鑛粉ヲ多量ニ含有スル中ニ居ツテ、坑内勞働ヲ致シテ居ルノデアリマスカラ、長ク働ケバ貧血ヲ起シ、疲勞ヲ來シ、衰弱ヲ起シテ能率ガ低下スルノハ當然デアリマス、企畫院ノ某調査隊ノ中ノ軍人ダツタサウデアリマスガ、炭礦方面或ハ鑛山方面ニ參リ

マシテ、ソレガ坑外ニ於テ生産擴充ノ大演說ヲ爲サレタ場合ニ、鑛夫ガ皆感激シテ涙ヲ流シテ喜ンダ、所ガ其ノ人ガオツカナビツクリ坑内ニ入ツテ行ク恰好ヲ見テ、今ノ大演說、大雄辯ガサツバリ力ガナクナツタト言ハレテ居ルノデアリマス、又中ニ入ツテ石炭ヲ少シ積ンデアリマス所ニ登ツタノダサウデスガ、今日ノ鑛夫ガ優良ナ鑛夫デアルカ、不熟練ナ鑛夫デアルカ、不眞面目ナ鑛夫デアルカガ、ドウシテ見分ケルカト言ヘバ、鑛山地帯ニ入ツテ若シモ石炭ノ一塊ガ落チテ居ツタナラバ、之ヲ道路ノ脇ニ寄セテカラ通ルヤウナ鑛夫デアリマスレバ、ソレハ優良鑛夫デアル、若シモソレヲ蹴飛ばシテ歩クヤウナ鑛夫ガ居ルナラバ、其處ハ能率ガ下ツテ居ル所ニ違ヒナイ、石炭一塊スラモ血ト汗ノ賜デアリマスルカラ、ソレヲ大切ニシテ人ニ踏マセナイト云フヤウナ心懸ケガアレバコソ、是ハ能率ガ擧ツテ來ル、能率ヲ増進シ、増産ヲ獎勵スル人ガ鑛石ノ上ニ上ルヤウデハ、是ハ何ト叫ンダツテ、又金錢ヲ出シタツテ増産ハ出來ルモノデナイト思フ(ヒヤ／＼)元來鑛夫ノ生命ハ昔カラ決ツテ居ル、鑛夫デ四十歳ニナルト古稀ノ祝ヲスル、是ガ鑛山仲間ノ仁義デス、四十歳ニナルト古稀デス、稀ニ生キテ居ルト云フコトデ古稀ノ祝ヲサヘシテ居ル、普通ノ人間ト違フ、四十歳マデ生キレバ長生キシタト云フ、如何ニ鑛夫ノ壽命ガ短イカト云フコトヲ知ラネバナリマセヌ、炭礦ニ居リマシテ十年カラ精々二十年、金

屬鑛山ニ於テ十五年カラ二十五年モ生キテ居リマスレバ長イ方デアル、隨テ今日ノ石炭ガ燃エルトカ、此ノ石炭ハ暖カダト云ツテ居ルノハ、何ガ燃エテ居ルカト言ヘバ、此ノ鑛夫ノ膏ト血ガ燃エテ居ルノデアリマス、私ハ電氣ヲモサウ思フ(拍手)石炭ガ燃エテ電氣ニナツテ居ル、其ノ石炭ガ鑛夫ノ血デアリ膏デアルト思フ(拍手)ソレナノ何ノ對策ナクシテ、如何ニ重要鑛物ノ増産ヲ圖ラウト、石炭ノ増産ヲ圖ラウト云フ考ニナラレマシテモ、私ハ絶對ニ鑛物ガ出ナイノト考ヘル、アノ產金獎勵ノ場合ニ、十三年度ヲ基準トシテ、十三年度以上ノ產金ヲ出セバ獎勵金ヲヤラウト云フ獎勵金政策ヲ執ラレタ、業者ハドウデス、十三年度ニ例ヘバ六百瓦ノ金ヲ出シタ、今年度十四年度ガ十三年度ヨリ不足デアレバ、獎勵金ヲ貰ヘナイカラ、今年度ノ下半期分三百瓦ヲ十五年度ノ方ヘ廻シテ八百瓦トシテ、十五年度ニ於テ獎勵金ヲ貰ハウト云フヤウナ政策ヲ執ルノデハナカラウカ、今日鑛内ニ入ツテ行ツテ御覽ナサイ、相當著脈シテ居ナガラ是ハ十五年度ノ分トシテ殘シテ置カレル、ソレハ何カト言ヘバ、十四年度ニ出シタナラバ獎勵金ハ貰ヘナイカラ、十五年度ニ出シテ増額ノ獎勵金ヲ取ラウト云フヤウナ手段デアルト考ラレル點モ多々アルノデアリマス、此ノ國家ノ非常時ニ於キマシテ事業者ハ斯ル策ヲ弄スルガ鑛夫ハ血ト膏ヲ出シテ働イテ居ル、モウ一ツハ鑛夫ノ榮養ノ問題デアリマス、鑛夫ハ一體貧

澤ダト言ハレマスケレドモ、是ハ贅澤ヲシナケレバ生キテ行カレス、礦山長屋ニ行ツテ御覽ナサイ、足尾アタリハ一日ニ馬ヲ二頭位食フ筈デアリマス、小坂鑛山デハ馬肉ヲ一頭半食フ、住友ノ別子ハ馬ガ恐ラク三頭位殺サレテ居ル筈デアリマス、其ノ位馬肉ヲ珍重シ、或ハ魚肉ヲ攝ラナケレバ、今日鑛夫ノ壽命ハ續ケ得ナイノデアル、今日鑛夫ノ賃銀ガ三倍ニナツテモ四倍ニナツデモ、此ノ悲惨ナル鑛夫ニナリ手ハ恐ラクナカラウト思フ、然ラバ如何ニシテ此ノ必要ナル所ノ産業戰士ヲ造ルカト云フナラバ、此ノ産業戰士ガ勇躍産業戦線ニ就カレルヤウナ社會狀態ト政治機構ガ生レテ來ナケレバ、私ハ出ナイト考ヘル（「ヒヤ」）

拍手）今日ノヤウナ政治機構ノ下ニ於テ、今日ノヤウナ社會情勢ノ下ニ於キマシテ、誰ガ命ヲ捨テテ坑内ニ入ル者ガアラウカ、事業者ガ利潤ノ追求ニ追ハレテ居ル間、利潤ヲ追求シテ居ル業者ノテ爾間、自分ノ生命ヲ縮メテ産業戰士ニナルト云フコトヲ考ヘラレル譯ハナイノデアリマス、此ノ重要鑛産物デアル石炭等ガ國家目的ノ爲ニ増産サレルト云フ建前ガ出來テ、初メテ鑛夫ハ勇躍産業戰士ニナルノデアルト私ハ考ヘルノデアリマス（拍手）隨テ彌縫策デハアリマスケレドモ、今次事變ヲ處理シ、世界ノ攻勢ニ對抗スル爲ニハ、東亞新秩序建設ニ全力ヲ傾倒スルト云フコトハ言フマデモナイノデアリマスガ、此ノ新秩序ノ核心ヲ成スモノハ國家ノ産業力デアリ、生産力デア

リマスコトハ言フ要シマセス、此ノ産業力ノ基本ハ優秀ナル技術ト強力勞働力デアリ、體力デアルト云フコトハ、又言フ要シナイノデアリマス、即チ勞働力ヲ利潤追求ノ對象ト爲シツツアル現狀ヲ打破シテ、眞ニ産業戰士ヲ育成サレル國民的組織ガ茲ニ生レルコトガ、絕對ノ條件デアリマスケレドモ、彌縫策ト致シマシテ今日ノ鑛夫ニ對スル厚生年金及ビ養老其ノ他ノ年金制度ヲ考ヘテ、兎ニ角モ彌縫シナケレバ益、鑛夫ノ減少ヲ來シ、鑛夫ノ減少ガ即チ一塊ノ石炭ノ減少トナリ、金ノ減少トナリ、兵器ヲ造ル所ノ銅ノ減少トナツテ現ハレルト云フコトヲ私ハ惧ルノデアリマス、斯ル觀點ニ立ツテ鑛業法ガ改正サレナケレバナラヌト私ハ思フ、明治五年ニ出來マシタ鑛山心得ハ——現ニ日本ノ鑛山ハ國ノ專有デアツタ、豐臣秀吉ノ時代ニ於テハ各藩ノ藩主カラ鑛業權、鑛山ヲ取ツテ來タ、徳川家康ガアレダケノ勢力ヲ能ク張り得タノハ、各藩ノ藩主カラ各鑛山ヲ成ベク自分ノ手ニ奪取シタ、是ガ徳川家康三百年ノ基礎ヲ築イタ所以デアル、今日ノ政府ニ於キマシテ是等資本家ノ持ツテ居ル所ノ鑛山ヲ取戻シテ、以テ國家財政ヲ建直シ、國際貿易ヲ振興シ、サウシテ以テ國運ノ隆盛ニ寄與シ、軍備ヲ完備シテ國防國家ヲ作ルダケノ勇氣ヲ持タナイデ此ノ改正案ヲ出サレタガ、斯ル姑息ナ手段ニ依ツテハ増産ナドハ思ヒモ寄ラナイト云フコトヲ申上ゲテ、之ニ對スル商工大臣ノ御意見ヲ御尋致シマシテ、私

ノ質問ニ代ヘル次第デアリマス（拍手）

〔政府委員加藤鐵五郎君登壇〕

○政府委員（加藤鐵五郎君）川俣君ノ御質問ニ御答シマス、川俣君ハ銅「アルミウム」ハ國防上重要ナモノデハナイカ、之ニ對シテ政府ハドウ考ヘテ居ルカト云フ御意見ノヤウデアリマシタガ、全ク川俣君ノ御説ノ通りデアリマス、仍テ政府ト致シマシテモ從來ヨリ實施致シテ居リマシタ地質鑛床ノ調査ヲ一層擴充致シテ參リマスシ、又從來ヤツテ居リマシタ半官半民ノ帝國鑛業開發株式會社ノ如キモ、資金ノ融通、睡眠鑛區ノ開發及ビ製鍊所ノ經營ナドヲ致シテ居リマシタガ、今後ト雖モ出來ルダケ努力致シマシテ、川俣君ノ御期待ニ副ヒタイト存ズル次第デゴザイマス、ソレカラ本法案ノ改正ト朝鮮鑛業令ト如何ニ睨ミ合セルカト云フヤウナ御質問デアリマシタガ、内地ト朝鮮トハ諸般ノ事情モ異リ、殊ニ立法ノ歴史モ異ツテ居リマスノデ、自ラ法律ノ建前ガ違ツテ居ル次第デアルノデゴザイマス

〔國務大臣吉田茂君登壇〕

○國務大臣（吉田茂君）鑛山ニ於ケル勞働力ノ補給並ニ勞務者ノ能率増進ニ付キマシテ、縷々御述ニナリマシタノデアリマス、當局ト致シマシテモ鑛山勞務者ノ能率ヲ増進致シマス爲ニ、其ノ精神的ナ奉仕ノ念ト云フモノノ十分ニ燃上ルヤウニスルト云フコトガ根本デアリマスコトニ付キマシテハ、全然御同感デアリマス、今日ノ現狀ニ於キ

マシテモ、御述ニナリマシタ通りノ極メテ困難ナ環境ノ下ニ於キマシテ、危險ヲ凌イデ鑛山ノ中ニ於キマシテ奮闘努力致シテ居リマス所ノ産業戰士諸君ニ對シマシテハ、私共至大ノ感謝ト尊敬ヲ拂ツテ居ル次第デアリマス、此ノ日本勞働者ノ本質、御國ノ爲ニ戰時下ノ重要産業ノ爲ニ身ヲ效シテ奮闘スルト云フ、此ノ日本勞務者ノ特質ト云フモノヲ十分ニ發揚スルコトガ根本ニナリマシテ、他ノ一切ノ施設ガ初メテ生キタ働キヲ爲シ得ルノデアルト思フノデアリマス、先刻申述ベマシタヤウナ、例ヘバ資材ノ配給、其ノ他各種ノ鑛山方面ニ對シテ行ハレマス施設モ、勞資與ニ俱ニ手ヲ携ヘマシテ、御國ノ重要産業ノ爲ニ盡スト云フ心持ヲ除外致シマシテハ、他ノ有形的ナ、或ハ物質的ナ施設ト云フモノモ十分其ノ效用ヲ擧ゲ得ナイデアラウ、サウ云フコトハ御意見ノアリマシタ所ト全然同様ニ私共モ考ヘテ居ル次第デアリマス、又現ニ左様ナ勞務者ノ心意氣ト云フモノガ、今日困難ナ事情ノ下ニ於キマシテモ、尙且ツ相當ノ出炭量ト云フモノヲ擧ゲテ居ル理由デアルト思フノデアリマス、此ノ點ニ付キマシテ、サレバ如何ナル施設ヲ致セバ左様ナ能率ノ増進ヲ來スコトガ出來ルカト云フコトモ、單ナル利害打算ト云フヨリモ、モット日本ノ産業ノ持ツテ居リマス本質ト云フモノニ根ザシマシタ立派ナ勞務ノ管理行ハレ、苟モ其ノ炭鑛ニ關係スル人々ハ共ニ一身同體ニナツテ、丁度御述ニナリマシタヤウニ、掘出ス石

炭ノ一塊々ヲ拜ム心持デ之ヲ取扱ツテ貫
フト云フヤウナコトニナリマスコトガ、一
番大事デアルト思フノデアリマス

産業報國運動等モ左様ナ心持ヲ以チマシ
テ、是ハ單ニ勞務者ノミデアツテハナラナ
イノデアリマス、事業主モ、或ハ技術員
モ、或ハ職員モ、總テ一ツ心持デ合體シテ
働クト云フ所ニ、初メテ見事ナ鑛山ノ能率
増進ト云フコトガ招來セラレモノト考ヘ
マス、此ノ事ノ一策ト致シマシテ、養老或
ハ癡疾年金制度、厚生年金制度、左様ナ趣
意ノ下ニ勞務者ノ生活安定ヲ策スル必要ガ
アルデアラウ、サウ云フコトニ付キマシテ
ハ他ノ機會ニ於キマシテモ再々御意見ヲ承
ツタ所デアリマスガ、當局ニ於キマシテハ
是非何等カ有效ナ成案ヲ得タイト云フ考ノ
下ニ、目下調査ヲ取進メテ居ルノデアリマ
ス、調査ノ纏リ次第其ノ事ニ付キマシテ又
御協賛ヲ仰ギマス場合モアラウト思フノデ
アリマス、大體ニ於キマシテ御質問ノ御趣
意ノヤウナ施設ヲ、成ベク速ニ立案實現
スルコトニ努メタイト考ヘテ居リマス（拍
手）

○副議長（田子一民君） 是ニテ質疑ハ終了
致シマシタ、各案ノ審査ヲ付託スベキ委員
ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○服部崎市君 日程第六及第七ノ兩案ヲ
一括シテ議長指名三十六名ノ委員ニ付託サ
レンコトヲ望ミマス

○副議長（田子一民君） 服部君ノ動議ニ御

異議アリマセスカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長（田子一民君） 御異議ナシト認メ
マス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○服部崎市君 殘餘ノ日程ヲ延期シ、本日
ハ是ニテ散會セラレンコトヲ望ミマス
○副議長（田子一民君） 服部君ノ動議ニ御
異議アリマセスカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長（田子一民君） 御異議ナシト認メ
マス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、次會ノ
議事日程ハ公報ヲ以テ通知致シマス、本日
ハ是ニテ散會致シマス

午後三時四十一分散會

衆議院議事速記録第十五號中
正誤

頁	段	行	誤	正
三〇〇	四	三〇	得ヲ	後ヲ
三二〇	一	二四	三輔壽壯君	三輪壽壯君

